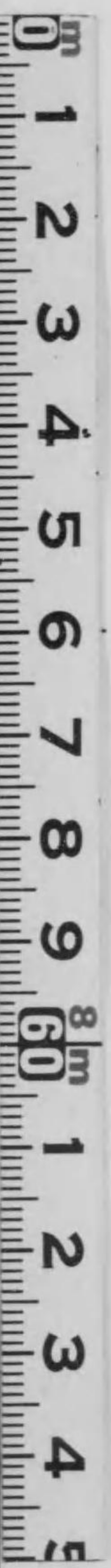


283  
21



始



IT5K-5

28

28.3  
21

神宮皇學館一覽

從大正五年三月  
至大正六年三月

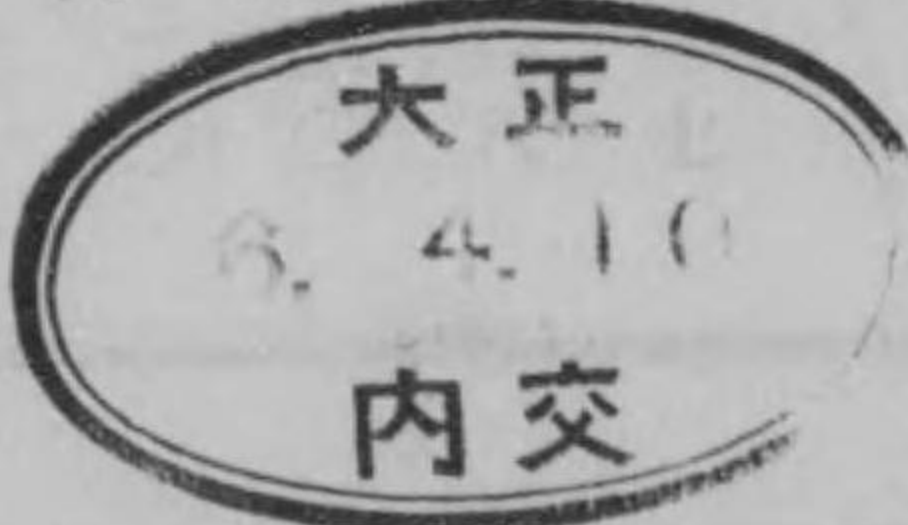
283-2/



# 令旨

神宮皇學館教育ノ旨趣ハ 皇國ノ道義ヲ講シ  
 皇國ノ文學ヲ修メ之ヲ實際ニ運用セシメ以テ倫  
 常ヲ厚ウシ文明ヲ補ハムトスルニ在リ夫レ業勤  
 ノザレバ精ナラス事習ハサレバ達セス況ンヤ本  
 館期スル所ノ學ノ重且大ナルニ於テチャ  
 本館學生深ク此旨ヲ體シ常ニ師長ヲ敬重シ館則  
 チ遵守シ黽勉努力以テ他日ノ成業ヲ期シ夙夜肯  
 テ怠ルコト勿レ

明治三十三年二月十八日



明治三十三年二月十八日

天皇陛下ノ御旨

大體官ノ學級長官ノ職目ノ新設ノ旨ヲ奉旨ニ依テ  
主務ノ進言ヲ斷之當ニ而莫ク其旨ニ前出  
ハ汎ク學ノ業且大ニ之ニ然ラセテ  
ハ辭セテ大體官ハ之ニ然ラセテ  
ハ辭セテ大體官ハ之ニ然ラセテ  
ハ辭セテ大體官ハ之ニ然ラセテ  
ハ辭セテ大體官ハ之ニ然ラセテ  
ハ辭セテ大體官ハ之ニ然ラセテ  
ハ辭セテ大體官ハ之ニ然ラセテ  
ハ辭セテ大體官ハ之ニ然ラセテ  
ハ辭セテ大體官ハ之ニ然ラセテ

令旨

五六  
文内

神宮皇學館一覽 從大正五年四月至大正六年三月

目錄

第一章	學年曆	一
第二章	沿革	五
第三章		
第一	官制	一七
第二	官等俸給令	一八
第三	任用令	二〇
第四	賜金	二〇
(一)	神宮職員退隱金及遺族扶助金給與規程	二一
(二)	神宮職員退隱金及遺族扶助金給與規程施行細則	二八
(三)	神宮皇學館教官退隱金給與規定	三七

(四) 神宮皇學館教官退職金給與年數加算ノ件

第五 神宮雇員及囑託員ニ關スル規則

第六 神宮雇員俸給規程

三七  
三八  
四〇

第四章 規則

第一 神宮皇學館規則

四二

第二 神宮皇學館學生取締規則

六一

第三 神宮皇學館寄宿寮規則

六三

第四 神宮皇學館學生服制

六八

第五 神宮皇學館館費生規則

七四

第六 神宮皇學館外國留學生規程

七五

第七 神宮皇學館圖書閱覽規程

七九

第八 神宮參拜規程

八一

第九 神宮皇學館特別試驗規程

八四

第十 神宮皇學館學生生徒喪暇規程

八六

第十一 神宮參拜日及勅語捧讀日

八七

第十二 創立紀念日

八八

第十三 評議委員會規程

八八

第五章

第一 處務

九〇

(一) 神宮皇學館處務規程

九〇

(二) 神宮皇學館館務分掌規程

九二

(三) 神宮皇學館富直規程

九六

第二 服務

九九

神宮皇學館職員服務心得

九九

第三 旅行

一〇二

神宮職員旅行規程

一〇二

第六章 職員

第一 職員

一〇四

第七章 學生生徒

第一 學生生徒府縣別員數表

一〇九

第二 學生生徒生年別員數表

一一三

第三 學生生徒氏名

一一三

(一) 本科生

一一三

(三) 專科第二部生

一一九

第八章 卒業生

第一 卒業生出身府縣別表

一二〇

第二 卒業生職業分類別表

一三〇

第三 卒業生在職府縣別表

一三三

第四 卒業生氏名

一三五

附錄

第一 資格

一八一

(一) 神職資格

一八一

(二) 教員資格

一八二

第二 大正五年三月本館卒業證書授與式

一八三

第三 神宮皇學館經費累年比較表

一八五

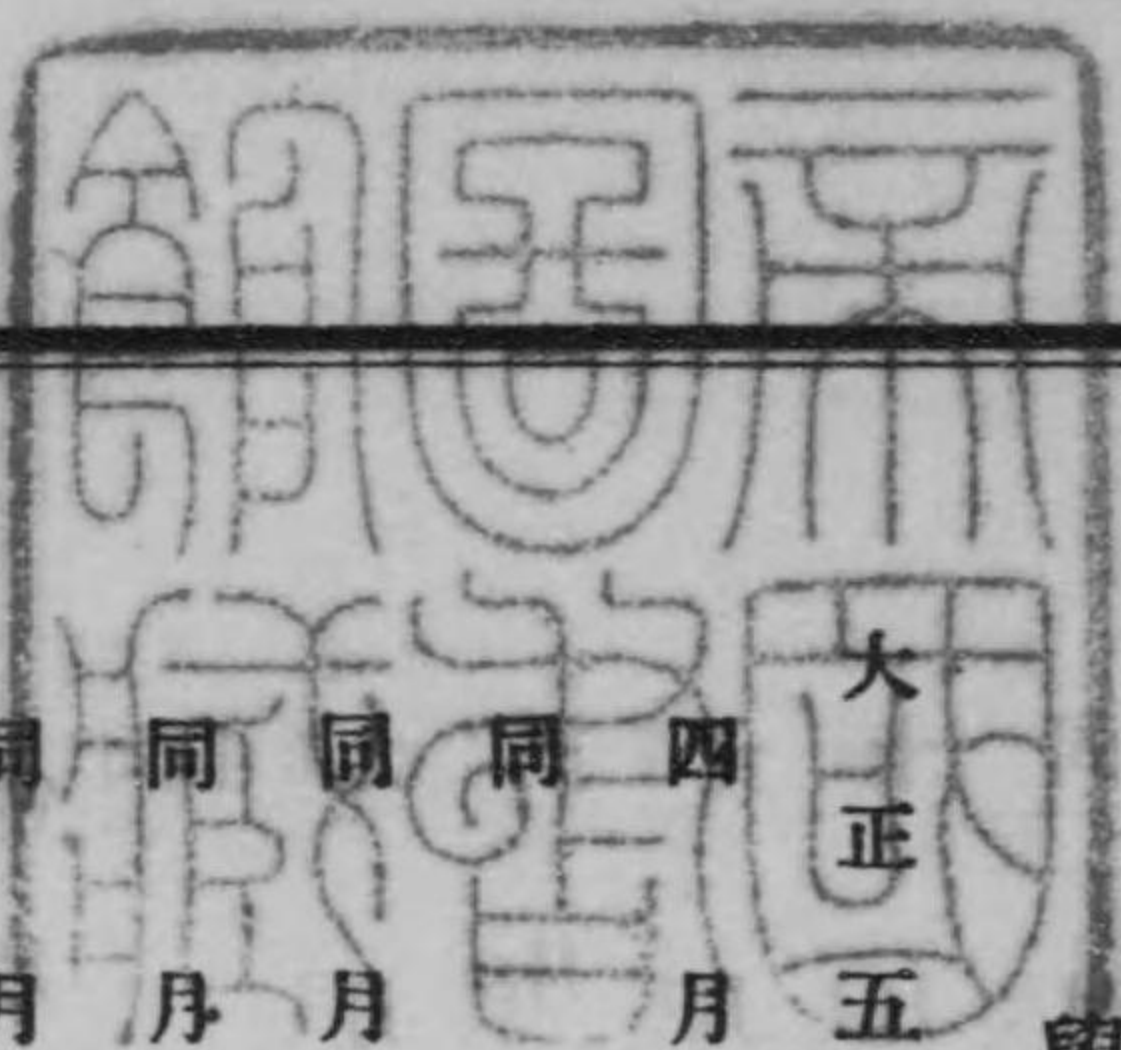
第四 神宮皇學館敷地圖

第五 神宮皇學館建物配置圖

神宮皇學館一覽

第一章

學年曆



大正五年  
四月 一 日  
同 月 三 日  
同 月 十 日  
同 月 十一 日  
同 月 三十 日  
五月 十四 日  
六月 十七 日

第一章 學年曆

學年 始

春期休業始

神武天皇祭(遙拜式)

春期休業終

第一學期始

本館創立記念日

神宮神御衣祭(遙拜式)

神宮月次祭(遙拜式)

七月二十日  
七月二十一日  
同月三十日  
八月三十一日  
同  
九月一日  
同月二十四日  
十月十四日  
十月十六日  
同月十七日  
同月三十日  
同月三十一日  
十一月二十三日

第一學期終  
夏期休業始  
明治天皇祭  
天長節  
夏期休業終  
第二學期始  
秋季皇靈祭(遙拜式)  
神宮神御衣祭(遙拜式)  
神嘗祭(豐受大神宮參拜)  
同(皇大神宮參拜)  
勅語奉讀式  
天長節祝日(拜賀式)  
新嘗祭(兩大神宮參拜)

十二月十七日  
十二月二十四日  
同月二十五日  
大正六年  
一月一日  
同月三日  
同月五日  
同月七日  
同月八日  
二月十一日  
同月十七日  
三月二十一日  
三月三十一日

神宮月次祭(遙拜式)  
第二學期終  
冬期休業始  
新年拜賀式  
元始祭  
新年宴會  
冬期休業終  
第三學期始  
紀元節(拜賀式)  
神宮祈年祭(兩大神宮參拜)  
春季皇靈祭(遙拜式)  
第三學期終



同 三月十一日

學三年終

# 第一章

## 沿革

本館ハ明治十五年四月 神宮祭主朝彦親王殿トノ令旨ニヨリテ、神宮神官ヲシテ皇學ヲ研究セシメンガ爲メ、林崎文庫内ニ設置セラレタルヲ以テ創始トナス、

明治十六年五月神宮權宮司藤岡好古令旨ヲ奉ジテ之ヲ擴張シ、内務省ノ認可ヲ受ケ、學科ヲ下等、中等、上等ノ三級ニ分チ、將來神宮神官ニ充ツヘキ人材ヲ養成セムコトヲ計ル、

明治十八年一月宮司鹿島則文規則ヲ改正シ、禰宜御巫清直ニ教授ヲ命ジ、以下新ニ職員ヲ置キ廣ク學生ヲ募リ、同月十一日ヲ以テ開講式ヲ舉グ、課程ヲ豫備課、中等課、上等課ニ分チ、修身、文學、歴史、算術ノ四科トス、

明治廿年四月更ニ規則ヲ改正シ、科程ヲ尋常科及ヒ高等科ニ分チ、尋常科ハ専ラ普通學ヲ修メシメ、之ヲ卒業シタルモノヲ以テ高等科ニ入學セシムルコト、シ、尋常科ノ修學年限ヲ四ケ年、學科ヲ古典、歴史、倫理、文學、國語、英語、地理、博物、數學、簿記、幾何、習字、圖

書、体操トナス、高等科ノ修學年限ヲ四ケ年、學科ヲ古典、歴史、文學、法制、哲學、倫理、經濟、体操トス、全月四日中田正朔ヲ館長ニ、東吉貞ヲ教頭ニ、下田義天類ヲ副教頭兼教授ニ、孫福弘坦ヲ幹事ニ命ジ、以下大ニ職員ヲ増加セシモ、以上ノ學科課程ハ其全部ヲ實施スルノ運ニ至ラザリキ、全十月宇治浦田町ニ校舍ヲ新築シ此ニ移轉ス、

明治二十一年二月寄宿舎ヲ新設ス、全五月規則ヲ改正シ、尋常科ノ學科ヲ古典、歴史、修身、文學、國語、英語、數學、簿記、習字、体操トナシ、其入學資格ヲ、年齡滿十五年以上ニシテ小學校高等科ヲ卒業シタルモノ、若クハ之ニ相當スル學力アルモノトス、

明治二十三年五月始メテ卒業證書授與式ヲ舉グ、全八月更ニ規則ヲ改正シ、尋常科ヲ豫科ト改メ、簿記、習字ノ二科ヲ廢シ、其修業年限ヲ一ケ年トシ、高等科ヲ本科ト改メ、其修業年限ヲ四ケ年トナシ、又別ニ選科ヲ設ケ、志望者ヲシテ古典、國文、國語ノ三科ヲ修メシム、全月職制ヲ改正シ、專任館長ヲ廢シ、神宮正權宮司ノ擔任トナシ、又別ニ參事員ヲ置キ重要事項ノ諮詢ニ與ラシム、

明治二十五年二月館費生及特別研究生ヲ置キ、學力品行共ニ優等ナルモノヲ選抜シ食費ヲ給シ

テ修學セシム、全三月更ニ職制ヲ改メ、參事員ヲ廢シテ委員ヲ置キ、舊參事員ヲ以テ之ニ充ツ、全十二月十文字重光ヲ幹事トナス、

明治二十六年九月本科卒業生ニシテ猶高等ノ學科ヲ研究セント欲スル者ノ爲メニ研究科ヲ置キ又簡易速成ヲ欲スル者ノ爲メニ專科ヲ設ク、研究科ノ修業年限ヲ二ケ年トシ、學科ヲ古典、法制、國文、漢文、英語、体操ト爲シ專科ノ修業年限ヲ二ケ年トシ學科ヲ古典、法制、國文、國語、作業、体操トナス、

明治二十七年四月岡部讓神宮權宮司ニ任セラレ副館長ヲ擔任ス、五月教授木野戶勝隆教頭ヲ命ゼラル、全七月館則ヲ改正シ、總裁、館長、副館長、評議員、理事、教頭、教授等ノ職ヲ置キ總裁ニハ神宮祭主ヲ推戴シ、神宮々司ヲ以テ館長ニ充ツ、全九月內務省訓令第十一號ヲ以テ、本科卒業生ハ官國幣社宮司權宮司ニ、專科卒業生ハ全補宜以下ニ、試験ヲ要セズ採用セラル、事ヲ得ベキ旨規定セラル、

明治二十九年二月學則ヲ改正シ、學科ヲ本科、豫科及專科トシ、本科修業年限ヲ四ケ年、豫科ヲ五ケ年、專科ヲ二ケ年トシ、本科ノ學科目ヲ經義、歴史、法制、文學、英語、哲學、禮式、

八  
体操トシ、豫科ノ學科目ヲ經義、歴史、文學、地理、數學、理科、英語、簿記、習字、圖書、  
体操トシ、専ラ尋常中學ノ課程ニ據ル專科ノ學科目ヲ經義、歴史、法制、文學、數學、簿記、  
禮式、体操トナス、入學資格ヲ、本科ニアリテハ本館豫科卒業者又ハ各府縣尋常中學校卒業者、  
若クハ年齢滿十八歳以上ニシテ入學試験ニ及第セル者トシ、豫科ニ在リテハ、高等小學第三學  
年修業以上ノモノトシ、專科ニアリテハ、豫科第三學年修業以上又ハ各府縣尋常中學校第三學  
年修業以上ノモノ、若クハ年齢滿十六歳以上ニシテ入學試験ニ及第セルモノトナス、全三月職  
制ヲ改正シ、總裁、館長、副館長、幹事、教頭、教授、助教、舍監、書記ヲ置ク、依テ神宮  
祭主賀陽宮殿下ヲ總裁ニ推戴シ、宮司鹿島則文館長ヲ、權宮司岡部讓副館長ヲ兼ヌルコト前ノ  
如シ、全月地ヲ宇治館町ニトシ校舍改築ニ着手ス、全四月神宮禰宜山田岩次郎幹事ヲ命ゼラル、  
全六月矢島錦藏(休職北海道札幌尋常中學校長)教授兼教頭ヲ命ゼラル、全十二月校舍新築功竣  
ルヲ以テ移轉ス、學館ノ規模稍定ル、

明治三十年二月幹事山田岩次郎職ヲ辭シ、神宮禰宜桑原芳樹幹事ヲ命ゼラル、全四月教授兼教  
頭矢島錦藏職ヲ辭ス、全六月文學士尾田信直教授兼教頭ヲ命ゼラル、全月十三日總裁邦憲王殿  
下臺臨、内務大臣樺山資紀臨場、開館式ヲ舉行セラル、

明治三十一年六月神宮々司鹿島則文全權宮司岡部讓退官シ、伯爵冷泉爲紀(平安神宮々司)神宮  
々司ニ任ゼラレ館長ヲ兼ヌ、全十二月神宮禰宜桑原芳樹權宮司ニ任ゼラレ副館長ヲ兼ヌ、全月  
文部省告示第七二號ヲ以テ、本科及豫科ヲ徴兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度ト同等以上  
ト認メラル、此月職制ヲ改正シ、教監ヲ設ケ、教頭ヲ幹事ノ上ニ置キ、舍監ヲ學生監トシ、大  
ニ職員ヲ淘汰シ、教監ヲ男爵細川潤次郎ニ囑託ス、

明治三十二年一月教授木野戸勝隆教頭ヲ、教授矢野萬太郎幹事ヲ命ゼラル、全五月二重縣立第  
四中學校設立ノ舉アルニヨリ、本館教育ノ方針ヲ變更シ、中學程度ノ豫科ヲ廢シ、三重縣知事  
ト協議シ内務大臣ニ申請シ、在學生ヲ舉ゲテ全中學校ニ移シ、専ラ本科擴張ノ計畫ヲ立テタリ、  
全七月本科卒業生ノ教員免許資格ニ關スル件ヲ申請ス、全八月學則ヲ改正シ、專科ノ修業年限  
ヲ三ケ年トシ、又特待生、貸費生、館費生等ノ制ヲ設ク、全月教授兼教頭木野戸勝隆兼職ヲ辭  
シ教授黒木千尋教頭心得ヲ命ゼラル、全九月本科卒業生ニ關スル資格申請ニ對シ、文部省指令  
第一五五號ヲ以テ、同年文部省令第二十五號第一條ノ取扱ヲ受クル件ヲ許可セラル(無試験

檢定ニヨリ師範學校中學校高等女學校ノ日本史料及國語科教員タルノ資格ニ全十一月學生取締規則ヲ定メ、寄宿寮規則及學生學資保管規程ヲ設ケ、

明治三十三年二月十八日祭主宮殿ト臺臨令旨ヲ賜ハル、全五月御眞影並ニ教育ニ關スル勅語贈本ヲ下賜セラル、全七月更ニ本科卒業生ノ教員免許資格ニ關スル件ヲ申請ス、全九月申請ニ對シ、文部省指令子普甲第二四六三號ヲ以テ、師範學校中學校高等女學校ノ國語漢文科及ヒ歴史科ニ付キ、明治三十三年全省令第十號第五條第一項第二號ノ教員免許資格ニ關スル件ヲ許可セラル、

明治三十四年一月選修科規程ヲ設ケ、專科卒業生及其他ノ志望者ヲシテ本科學科ノ中ニ就キ隨意ニ選修スル事ヲ得シム、

明治三十五年二月勅令第二十八號ヲ以テ神職任用令ヲ發布セラレ、本科卒業生ハ奏任待遇ノ神職ニ、專科卒業生ハ判任待遇ノ神職ニ、試験ヲ要セズシテ任用セラル、コトヲ得ヘキ旨規定セラル、

明治三十六年三月教授兼教頭黒木千尋顯ニ依リ職ヲ解カレ、教授尾崎八束教頭心得ヲ命ゼラ

ル、全八月勅令第一三〇號ヲ以テ、神宮皇學館官制ヲ公布セラレ學館ノ性質是ニ於テ定ル、同官制第三條ニ依リ神宮少宮司桑原芳樹館長ヲ兼ス、教授尾崎八束教務主任ヲ命ゼラル、以下大ニ職員ヲ増加ス、同月勅令第一三一號ヲ以テ職員官等俸給令ヲ公布セラル、同十二月文部省告示第二一六號ヲ以テ、本科卒業生ハ無試験檢定ニ依リ師範學校中學校高等女學校ノ歴史科及國語漢文科教員タル資格ヲ與ヘラルベキ旨公布セラル、

明治三十七年四月學則ヲ改正シ、本科學科中經義ヲ倫理トシ、支那史ヲ東洋史トシ、歴史修業時間ヲ増加シ、專科入學程度ヲ改メ、同學年ヲ二學年トナシ、選修科入學資格ヲ專科卒業生ニ限定シ、同科目ヲ倫理、國史、法制、國文、漢文、禮式、体操ノ七科トス、同九月教授尾崎八束教務主任ヲ罷メ、教授矢島錦藏同主任ヲ命ゼラル、明治三十八年五月事務分掌規程ヲ改正シ、館務ヲ教務部庶務部學生監部ノ三部トナシ、教授矢島錦藏教務部長ヲ、書記金剛幸之助庶務部長ヲ、教授湯淺廉孫學生監部長ヲ命ゼラル、同七月神宮司廳訓令乙第四號ヲ以テ本館學生服制ヲ定メラル、

明治三十九年三月學館接續ノ地ヲ購買シ、構外運動場ヲ開設ス、

明治四十年五月史學研究ノタメニケ年ヲ期シ、本科卒業生森田實ヲ獨逸國ニ派遣ス、

明治四十一年二月教授矢島錦藏願ニヨリ教務部長ヲ解カレ、教授尾崎八東教務部長ヲ命セラ  
ル、

明治四十三年三月神宮少宮司桑原芳樹休職ヲ命セラレ神宮輔宜兼教授不野戸勝隆神宮少宮司ニ  
任セラレ館長ヲ兼擔ス、同三月勅令第一四一號ヲ以テ職員官等俸給令ヲ改正セラル、同四月獨  
逸國留學生森田實歸朝ス、

明治四十三年十一月十四日 皇太子殿下御臺臨視シテ授業ヲ御參觀アラセラレ御寫眞ヲ下賜セ  
ラル、

明治四十四年五月 皇后陛下神宮御參拜ノ節獎學ノ思召ヲ以テ特ニ金五百圓ヲ下賜セラル、

明治四十五年四月三十日日本館創立滿二十年記念式典ヲ舉行ス文學博士松本愛重内務大臣代理ト  
シテ臨場ス二日間ニ亘リ記念講演會並ニ神宮ヲ中心トシテ公私所藏ニ係ル遺品展覽會ヲ開キ又  
記念陸上大運動會ヲ催ス東京帝國大學教授文學博士上田萬年學習院教授文學博士松本愛重京都  
帝國大學教授文學博士三浦周行同文學博士新村出講演ス、

大正元年十一月一日神宮司廳達第一六號ヲ以テ學則中入學願書履歷書學業成績證明書其他ノ書式ヲ  
改定シ授業料納期ヲ學期分納ニ改正セラル同十二月内務省訓令第二三九號ヲ以テ神宮雇員及囑  
託員ニ關スル規則ヲ定メラレ又神宮司廳達第一九號ヲ以テ神宮雇員俸給規程ヲ改正セラル同月  
教授尾崎八東願ニヨリ教務部長ヲ解カレ教授森田實教務部長ヲ命セラレ又新ニ學科主任ヲ設ケ  
教授尾崎八東歴史科主任ヲ教授湯淺廉孫漢文科主任ヲ教授安藤正次國文科主任ヲ命セララル  
同年十二月二十三日事務室壹棟火災ニ罹リ重要書類殆全部烏有ニ歸ス

大正二年一月教授湯淺廉孫願ニヨリ學生監部長ヲ罷メ助教宇仁義一學生監部長事務取扱ヲ命  
セラル同二月神宮司廳達第四號ヲ以テ學生取締規則ヲ改メ始業時ヨリ終業時限マデ制服着用ノ  
事ニ定メラル同四月神宮司廳達第六號ヲ以テ館則第九條体操科ニ柔道ノ一科ヲ追加セラル同月  
神宮司廳訓令第五號ヲ以テ館務分掌規程ヲ改正セラレ教授森田實教務部長ヲ書記金剛幸之助庶  
務部長ヲ助教宇仁義一學生監部長事務取扱ヲ命セララル同五月神宮皇學館訓令第二號ヲ以テ神  
宮皇學館圖書閱覽規程ヲ定ム

同年九月勅令第二七六號ヲ以テ神宮皇學館官制ヲ勅令第二七七號ヲ以テ職員官等俸給令ヲ改正

セラレ全勅令第二七八號ヲ以テ神宮皇學館長特別任用令ヲ發布セラレ從三位勳三等武田千代三郎館長ニ任セラル同月内務省ニ於テ神社局長法學博士井上友一ニ神宮皇學館評議委員ヲ命ジ京都帝國大學總長澤柳政太郎東京帝國大學文科大學長文學博士上田萬年東京帝國大學文科大學教授文學博士三上參次文部省普通學務局長田所美治東京帝國大學文科大學教授文學博士萩野由之學習院教授文學博士松本愛重ニ神宮皇學館評議委員ヲ囑託セラル十月神宮司應達第一八號ヲ以テ本館教官退隱金給與ニ關スル規程ヲ設ケ同達第一九號ヲ以テ神宮參拜日及勅語捧讀日規程ヲ改正セラル同月助教授宇仁義一ノ學生監事務取扱ヲ解キ教授學生監阪本廣太郎ニ學生監部長ヲ命ス同月神宮司應訓令第一七號ヲ以テ神宮皇學館處務規程ヲ定メラル十一月神宮司應訓令第一八號及同二〇號ヲ以テ處務規程ノ一部ヲ改正セラル同月新築事務室ニ移轉ス十二月訓令第四號ヲ以テ本館職員服務心得ヲ定ム

大正三年一月神宮司應訓令第一號ヲ以テ本館處務規程ノ一部改正セラル二月訓令第一號ヲ以テ本館學察規則ノ一部ヲ改ム三月神宮司應達第三號ヲ以テ本館規則ヲ改正セラレ本科ノ學科ヲ修身、國史、外國史、法制、國文、漢文、英語、哲學、禮式、體操ノ十科ニ專科ノ學科ヲ修身、

外國史、法制、國文、英語、數學、習字、簿記、禮式、體操ノ十二科トシ各學科ノ程度及授業時間ノ配當ヲ改メ休業日短縮セラル四月訓令第二號ヲ以テ學生取締規則ヲ改正ス五月神宮司應達第一二號ヲ以テ神宮參拜日ヲ改正セラル七月神宮司應第一五號ヲ以テ本館教官退隱金給與年數加算ノ件ヲ定メラル九月教授森田實ニ歴史科主任ヲ命ス十月神宮司應達第一八號ヲ以テ神宮參拜日ヲ全訓令第一一號ヲ以テ神宮皇學館處務規程ヲ改正セラル全十二月教授學生監阪本廣太郎願ニ依リ學生監ヲ免セラレ教授増子懷永學生監ヲ命セラル

大正四年一月教授學生監増子懷永ニ學生監部長ヲ命ス全二月内務省訓第二三九號ヲ以テ神宮雇員及囑託員ニ關スル規則ノ一部改正セラル全三月神宮司應達第五號ヲ以テ本館規則ノ一部ヲ改正シ四月一日ヨリ施行ノコトニ定メラル全五月訓第一號ヲ以テ寄宿寮規則ヲ定ム全七月訓第二號ヲ以テ特別試驗規程ヲ全第三號ヲ以テ學生生徒喪暇規程ヲ定ム全月神宮司應達第一三號ヲ以テ本館規則ヲ改正セラレ專科ノ修業年限ヲ短縮シ之ヲ第一部(四ヶ月修了)第二部(十一ヶ月修了)ノ二部ニ分チ併セテ學科課程表ヲ定メラル全月 皇太子殿下神宮御參拜ノ節特別ノ思召ヲ以テ本館獎學資金トシテ金參百圓下賜セラル全月訓令第一號ヲ以テ圖書閱覽規程改正全八月神

宮司應達第一五號ヲ以テ本館々費規則及貸費規則ヲ全達第一七號ヲ以テ學生學資保管規程ヲ廢止セラレ全訓令第一〇號ヲ以テ學生服制ヲ全第一一號ヲ以テ處務規程ヲ改正セララル全月訓令第二號ヲ以テ館費生規則ヲ定メラル全十月天皇陛下御眞影ヲ下賜セララル

大正五年三月神宮司應訓令第二號ヲ以テ本館處務規程ノ一部ヲ同訓令第四號ヲ以テ本館學生服制ノ一部ヲ改正セララル全五月内務省神社局長塚本清治從四位勳二等法學博士水野鍊太郎神宮皇學館評議委員ヲ命セラル全六月教授増子懷永ニ國文科主任ヲ命ス全十月教授學生監増子懷永第七高等學校造士館教授ニ任ゼラレ教授鈴木暢幸學生監ヲ命セラル全月教授學生監鈴木暢幸ニ學生監部長ヲ命シ國文科主任ヲ命ス全十一月 皇后陛下御眞影皇太子殿下御寫眞ヲ下賜セララル全十一月神宮皇學館移轉改築工事ニ着手ス  
大正六年一月神宮皇學館訓令第一號ヲ以テ本館職員服務心得ノ一部ヲ改正ス

### 第三章

#### 第一 官制

勅令第一三〇號 明治三十六年八月二十九日  
朕神宮皇學館官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### ○神宮皇學館官制

第一條 神宮司應ニ神宮皇學館ヲ置ク  
第二條 神宮皇學館ニ左ノ職員ヲ置ク

- 館長 勅任又ハ奏任
- 教授 專任十人奏任
- 助教授 專任十人判任
- 學生監 三人
- 書記 專任三人判任

大正二年九月五日勅令第二七六號ヲ以テ改正

第三條 館長ハ神宮大宮司ノ指揮ヲ受ケ館務ヲ統理ス

第四條 教授ハ館長ノ指揮ヲ承ケ學生ノ教授ヲ掌ル

第五條 助教授ハ館長ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク

第六條 學生監ハ教授又ハ助教授ノ中ヨリ之ニ充ツ館長ノ指揮ヲ承ケ學生ノ取締ニ關スル事ヲ

掌ル

第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 内務大臣ハ館務ノ必要ニ依リ評議委員會ヲ設ケシムルコトヲ得其ノ委員ハ神宮大宮司

ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ命ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 第二 官等俸給令

勅令第二七七號 大正二年九月五日

朕神宮皇學館職員官等俸給令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### ○神宮皇學館職員官等俸給令

第一條 神宮皇學館長ハ高等官二等以下五等以上トス

第二條 神宮皇學館教授ハ高等官三等以下トス

第三條 神宮皇學館長教授助教授及書記ノ年俸ハ別表ニ依ル

第四條 神宮皇學館教授及助教授ノ俸給ハ其ノ授業ノ時間及學科ノ難易輕重ニ依リ最低額以下

ヲ給スルコトヲ得

(別表)

官名	俸給	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級
館長	三,000	二,500	二,100	1,700								
教授	2,200	2,000	1,800	1,600	1,400	1,200	1,100	1,100	1,000	900	800	700
助教授	900	800	700	600	550	500	450	400	350	300	250	



附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セラレサル者ハ其ノ現ニ受クル俸給額ヲ受クルモノトス

第 三 任 用

勅令第二七八號 大正二年九月五日

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ神宮皇學館長ノ特別任用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○神宮皇學館長特別任用令

神宮皇學館長ハ三年以上教育事務ニ従事スル高等文官又ハ奏任以上ノ教官ノ職ニ在リタル者ヨリ文官高等試験委員ノ詮衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第 四 賜 金

(一)神宮職員退隱金及遺族扶助金給與規程

神宮司應達第二號 明治三十九年六月十八日

神宮職員退隱金及遺族扶助金給與規程左ノ通改正ス

○神宮職員退隱金及遺族扶助金給與規程

第一條 神宮職員判任官待遇以上ノ者神宮ニ十五年以上在官又ハ在職シ左ノ各號ノ一ニ當ルト

キハ退隱金ヲ給ス

一、年齢六十歳ヲ超エ退官又ハ退職シタルトキ

二、不具、癆疾ニ因リ又ハ身体若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘズ退官又ハ退職

シタルトキ

三、傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘズ退官又ハ退職シタルトキ

四、官制又ハ定員ノ改正ニ依リ過員ヲ生ジタルガ爲免官、免職セラレタルトキ

五、廢官、廢應ニ依リ退官又ハ退職シタルトキ

六、判任官以上ノ者休職満期ニ依リ退官シタルトキ

七、奏任官待遇、判任官待遇ノ者事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタルトキ

第二條 職務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若ハ之ニ準ズベキ者ト爲リ其職ニ堪ヘズ退官又ハ退職シタルトキハ前條ノ年限ニ滿タザルモ退隱金ヲ給ス

前項ノ退隱金年額ハ在官、在職十五年ノ額ニ其ノ十分ノ七以内ヲ増加ス

前條ニ依リ退隱金ヲ受クル者又ハ受クベキ者本條第一項ニ當ルトキハ其ノ退隱金年額ニ十分ノ七以内ヲ増加ス

前二項ニ依ル退隱金増加額ハ傷疾、疾病ノ輕重ニ依リ之ヲ定ム

第三條 前條ノ規定ハ職務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退官、退職ノ後一年以内ニ其ノ傷疾疾病ニ起因シ同條ニ當ルニ至リタル者ニ之ヲ準用ス

第四條 退隱金ノ年額ハ退官、退職現時ノ俸給ト在官、在職年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在官、在職滿十五年以上十六年未滿ニシテ退官又ハ退職シタル者ノ退隱金年額ハ俸給年額ノ二百四十分ノ六十トシ十五年以後一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至リテ止ム但シ在官在職四十年以上ノ者ニ給スベキ退隱金ハ四十年ノ額トス

第五條 神宮職員奏任官待遇、判任官待遇ノ者在職一年以上十五年未滿ニシテ第一條各號ノ一

ニ當リ退職シタルトキハ一時金ヲ給ス但シ退隱金ヲ受クル者又ハ受クベキ者ハ此ノ限ニ在ラズ本規定施行以前ニ滿年金又ハ前項ノ一時金ヲ受ケタル者再ビ就職シ爾後退職シタルトキハ前項ニ掲グル在職年數ヲ其ノ再任ノ日ヨリ起算ス

一時金ハ退職當時ニ於ケル俸給月額二分ノ一ニ在職年數ヲ乘ジタル額トス

第六條 在官、在職年數ハ神宮職員判任官待遇以上初メテ任官、就職シタル月ヨリ起算シ退官退職ノ月ヲ以テ終リトス但十二箇月未滿ノ端數ハ之ヲ算入セズ、退隱退職ノ後再ヒ任官又ハ就職シタル者ハ其ノ前官職ノ月數ヲ算入ス

自己ノ便宜ニ因リ退官、退職ノ後又ハ懲戒處分若ハ刑事裁判ニ依リ免職、免職ノ後再ヒ任官又ハ就職シタル者ニ在リテハ其ノ前官職ノ月數ヲ算入セズ在官年數ト在職年數トハ交互通算スルモノトス

第七條 退隱金ヲ受クル者又ハ受クベキ者再ヒ神宮職員判任官待遇以上ノ官職ニ任用セラレ滿一年以上在官又ハ在職ノ後退官、退職シタルトキハ左ノ區別ニ依リ退隱金ヲ給ス

- 一、退官、退職現時ノ俸給前後同ジカラザルトキハ前官職ノ年數ヲ後官職ノ年數ニ通算シ後官職ニ對スル退隱金額ト前ノ退隱金額トヲ比較シ其ノ多キ方ヲ給ス
- 二、退官、退職現時ノ俸給前後相同ジトキハ在官、在職年數ニ依リ退隱金ヲ増加ス但シ前官職十五年未滿ニシテ退隱金ヲ受ケタル者ニ在リテハ前後通算シ十六年以上ニ至ラザレバ増加セズ

第八條 退隱金ヲ受クル者又ハ受クベキ者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ之ヲ給セズ

- 一、國籍ヲ喪失シタルトキ
- 二、重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 三、在官、在職中ノ犯罪ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第九條 退隱金ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ其ノ間退隱金ノ支給ヲ停止ス

- 一、公權ヲ停止セラレタルトキ
  - 二、神宮職員判任官待遇以上ノ官職ニ任用セラレタルトキ
- 他官應ニ於テ判任官待遇以上ノ官職ニ任用セラレ若ハ他ノ公務ニ從事シ一定ノ俸給ヲ受ク

ル場合ニ於テハ其俸給月額ニ退隱金月割額ヲ合シ退官、退職當時ニ於ケル俸給月額ニ超過スルトキハ其超過額ニ對スル退隱金ノ支給ヲ停止ス

第十條 神宮職員判任官待遇以上ノ者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ其ノ遺族ニ扶助金ヲ給ス

- 一、職務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ在官、在職中死亡シタルトキ
- 二、神宮ニ十五年以上在官又ハ在職シ在官在職中死亡シタルトキ
- 三、退隱金ヲ受ケ又ハ受クベクシテ死亡シタルトキ

扶助金年額ハ前項第一號ノ場合ニ在リテハ第二條ニ依リ査定シタル金額ノ三分ノ二トシ第二號ノ場合ニ在リテハ第一條第四條第六條第七條ニ依リ査定シタル金額ノ三分ノ一トシ第三號ノ場合ニ在リテハ其ノ退隱金年額ノ三分ノ一トス

但シ職務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退官、退職ノ後一年以内ニ其ノ傷疾疾病ニ起因シテ死亡シタルトキハ第二條第三條ニ依リ査定シタル金額ノ三分ノ二トス

第十一條 扶助金ハ寡婦ニ給ス寡婦死亡シ又ハ扶助金ヲ受クベカラザルトキハ子ニ給ス數子間ニ在リテハ法定家督相續ノ順位ニ依リ最先者ニ給ス最先者死亡若ハ扶助金ヲ受クベカラザ

ルトキハ順次次位者ニ轉給ス

民法第九百六十九條ニ依リ家督相續人タルコトヲ得ザル者及推定家督相續人ニシテ廢除セラレタル者ニハ扶助金ヲ給セズ但シ疾病其ノ他身體又ハ精神ノ狀況ニヨリ家政ヲ執ルニ堪ヘザルガ爲廢除セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

養子ハ家督相續人ニ非レバ扶助金ヲ給セズ

第十二條 扶助金ヲ受クベキ寡婦及子ナキトキハ扶助金ハ直系尊屬ニ給ス

前項ノ場合ニ在リテハ先ツ父ニ給シ父死亡シ又ハ扶助金ヲ受クベカラザルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此ノ例ニ依ル

第十三條 扶助金ヲ受クル者ナクシテ死亡シタル者ノ家ニ在ル兄弟姉妹二十歳未滿又ハ篤疾若ハ癡疾ニシテ自活スルコト能ハズ之ヲ給養スル者ナキトキハ扶助金ニ相當スル金額ノ三箇年分以内ヲ一時限リ給スルコトアルベシ

第十四條 遺族ニシテ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ扶助金ヲ給セズ

一、國籍ヲ喪失シタルトキ

二、重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

三、寡婦婚姻シタルトキ

四、子年齢二十歳ニ滿チタルトキ

五、尊屬ノ女婚姻シタルトキ

第十五條 子二十歳ニ滿ルモ篤疾又ハ廢疾ニシテ自活スルコト能ハズ他ニ扶助金ヲ受クル者ナキトキハ其ノ事由ノ存續スル間扶助金ノ三分ノ一ヲ給スルコトアルベシ

第十六條 扶助金ヲ受クル者公權ヲ停止セラレタルトキハ其ノ間扶助金ノ支給ヲ停止シ第十一條第十二條ノ順位ニ依リ之ヲ次位者ニ轉給ス

第十七條 本規程ニ於テ寡婦、子、尊屬ト稱スルハ神宮職員タリシ者死亡ノ當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル者ヲ謂フ但シ父死亡後出生シタル嫡出ノ子ハ死亡當時其ノ家ニ在ル者ト看做ス

第十八條 退隱金及遺族扶助金ノ支給、停止、廢止ハ其ノ事由ノ生シタル翌月ヨリ之ヲ行フ  
第三條ニ依ル退隱金ノ支給ハ事由認定ノ翌月ニ始マリ前條但書ニ依リ扶助金ノ支給ハ出生ノ翌月ヨリ始マル

第十九條 退隱金及遺族扶助金ノ年額圓位未滿ハ圓位ニ滿タシム

第二十條 退隱金及遺族扶助金ハ之ヲ受クベキ事由ノ生ジタル日ヨリ二年以内ニ申請スルニ非ザレバ之ヲ給セズ

第二十一條 退隱金及遺族扶助金ハ賣却、讓與又ハ負債ノ抵當ト爲スコトヲ得ズ違フモノハ其ノ支給ヲ停止ス

附 則

本規程ハ明治三十九年七月一日ヨリ施行ス

(二) 神宮職員退隱金及遺族扶助金給與規程施行細則

神宮司應達第三號 明治三十九年六月十八日

神宮職員退隱金及遺族扶助金給與規程施行細則左ノ通改正ス

○神宮職員退隱金及遺族扶助金給與規程施行細則

第一條 神宮職員退隱金及遺族扶助金給與規程ニ依リ退隱金ヲ申請スル者ハ退隱金申請書ヲ差

出スベシ但シ神宮皇學館職員タリシ者ノ申請ハ神宮皇學館長、神部署職員タリシ者ノ申請ハ神部署長ヲ經由スベシ

第二條 退隱金ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スベシ

- 一、在官、在職中ノ履歷書
- 二、戶籍ノ謄本

第三條 職務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退隱金ヲ申請スル者ハ前條ニ掲グル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其ノ事實ヲ證明スベシ

- 一、傷疾又ハ疾病ノ職務ニ起因シタル事實ヲ認ムベキ證據書類
- 二、醫師ノ診斷書

第四條 神宮職員退隱金及遺族扶助金給與規程ニ依リ扶助金ヲ申請スル者ハ親族二名、親族ナキトキハ縁故アル者又ハ近隣ノ戶主二名連署シタル扶助金申請書ヲ差出スベシ

但シ神宮皇學館職員タリシ者ノ遺族ノ申請ハ神宮皇學館長、神部署職員タリシ者ノ遺族ノ申請ハ神部署長ヲ經由スベシ

第五條 扶助金ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スベシ

一、戸籍ノ謄本

二、退隱金ヲ受ケタル後死亡シタル者ノ遺族ニシテ扶助金ヲ申請スル者ハ死亡者ノ受ケタル退隱金證書

第六條 扶助金ヲ受クル者死亡シ若ハ資格消滅シ又ハ支給期限ノ滿テタルトキハ扶助金ノ轉給ヲ申請スル者ハ前者ノ扶助金證書ヲ以テ申請ノ證ト爲スベシ

第七條 公權停止ニ依リ扶助金ノ轉給ヲ申請スル者ハ確定裁判ノ宣告書謄本ヲ以テ申請ノ證トナスベシ

第八條 扶助金ヲ受クル者ナクシテ死亡シタル者ノ家ニ在ル兄弟姉妹二十歳未滿又ハ篤疾若ハ癱疾ニシテ自活スルコト能ハザルトキ又ハ子二十歳ニ滿ツルモ篤疾若ハ癱疾ニシテ自活スルコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ自活スルコト能ハザル事實ニ付テハ市町村長ノ證明書、篤疾若ハ癱疾ニ付テハ醫師ノ診斷書ヲ以テ申請ノ證トナスベシ

第九條 神宮職員退隱金及遺族扶助金給與規程第二條ノ退隱金増加額ノ等差ハ左ノ如シ

- |    |                         |      |
|----|-------------------------|------|
| 第一 | 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ヲ亡シタルトキ      | 十分ノ七 |
| 第二 | 前項ニ準スベキ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ | 十分ノ六 |
| 第三 | 一肢ヲ亡シ若ハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ      | 十分ノ五 |
| 第四 | 前項ニ準スベキ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ | 十分ノ四 |
| 第五 | 一眼ヲ盲シ若ハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ      | 十分ノ三 |
| 第六 | 前項ニ準スベキ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ | 十分ノ二 |
- 傷疾疾病ノ等差ハ明治十八年太政官達第十六號文官傷疾疾病等差例ニ依ル

第十條 神宮司廳宮司官房主事ハ退隱金、扶助金ノ申請書ヲ受ケ證據書類ニ據リ之ヲ審査シ申請ヲ理由アリト認ムルトキハ會計課長合議ノ上大宮司ニ稟申シ大宮司之ヲ聽許シタルトキハ宮司官房ニ於テ其ノ證書ヲ作り本人ニ交付スベシ但シ一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令ヲ用フ

退隱金、扶助金證書若ハ辭令書ヲ交付シタルトキハ宮司官房ハ之ヲ會計課ニ通知スベシ

第十一條 申請ノ理由ナシト認ムルトキハ其ノ意見ヲ具シ大宮司ノ決裁ヲ經テ之ヲ本人ニ通知

スベシ

前條及本條第一項ノ場合ニ於テ神宮皇學館職員タリシ者又ハ其ノ遺族ノ申請ニ係ルトキハ神宮皇學館長、神部署職員タリシ者又ハ其ノ遺族ノ申請ニ係ルトキハ神部署長ニ通知スヘシ

第十二條 退隱金、扶助金ハ其ノ年額ヲ四分シ四月、七月、十月、一月ニ於テ前三箇月分ヲ神宮司應會計課ヨリ支給シ受領書ヲ徴ス但シ受給ノ資格消滅シタルトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラズ之ヲ支給ス

月割金額ノ請求書ハ附録書式ニ依リ其ノ月五日マデニ差出スヘシ

第十三條 退隱金ノ請求書ニハ本期間ニ於テ神宮職員退隱金及遺族扶助金給與規程第八條及第九條ニ觸レザル旨ノ市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第十四條 扶助金ノ請求書ニハ本期間ニ於テ神宮職員退隱金及遺族扶助金給與規程第十四條及

第十六條ニ觸レザル旨ノ市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第十五條 退隱金、扶助金ノ請求ハ其都度該證書ヲ呈示スベシ

受給者神宮司應所在地外ニ居住スルトキハ其ノ地ノ市町村長ニ證書ヲ呈示シ其ノ呈示アリタル旨ノ證明書ヲ受ケ之ヲ呈示スベシ

受給者神宮司應所在地外ニ居住スルトキハ受給者ノ申請ニ依リ退隱金、扶助金ハ會計課ヨリ爲換ヲ以テ送付スルモノトス

第十六條 退隱金、扶助金ヲ受クル者居住ヲ轉ジタルトキハ新舊住所ヲ記載シ届出ベシ

第十七條 退隱金、扶助金ヲ受クル者死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親族ヨリ届出ベシ

退隱金ヲ受クル者死亡シ扶助金ヲ申請スベキ遺族ナキトキハ死亡ノ届出ヲ爲スト同時ニ退隱金證書ヲ還納スベシ

第十八條 水火盜難等ニ由リ退隱金證書、扶助金證書ヲ亡失シタルトキハ其事由ヲ具シ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ宮司官房主事ハ其ノ證書ノ謄本ヲ作り本人ニ交付スベシ此謄本ハ本證書ト同一ノ効力アルモノトス

第十九條 退隱金、扶助金ヲ受クル者氏名ヲ改稱シタルトキハ其ノ證書ヲ添へ届出ベシ

宮司官房ハ證書ノ裏面ニ其ノ事實ヲ記シ官房主事署名捺印ノ上本人ニ交付シ之ヲ會計課ニ通知スベシ

第二十條 退隱金ヲ受クル者他官廳ノ判任官待遇以上ノ官職ニ任用セラレ若ハ他ノ公務ニ從事シ一定ノ俸給ヲ受クルニ至リタルトキハ其ノ官職俸給及任官、就職年月日ヲ明記シ届出ベシ

第二十一條 退隱金、扶助金ヲ受クル者國籍ヲ喪失シタルトキハ戶籍役場ニ差出シタル届書ノ寫ヲ添へ届出ベシ

第二十二條 退隱金扶助金ヲ受クル者重罪、輕罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告書謄本ヲ添へ本人又ハ親族ヨリ届出ベシ

第二十三條 扶助金ヲ受クル寡婦又ハ尊屬ノ女婚姻シタルトキハ戶籍役場ニ差出シタル届書ノ寫ヲ添へ届出ヘシ

附 則

本則ハ明治三十九年七月一日ヨリ施行ス

(附 録)

○退隱金(扶助金)請求書式

(半紙又ハ半紙形野紙ヲ用ヒ前半面ニ請求ヲ記載シ後半面ニ市町村長ノ證明書ヲ受クベシ)

退隱金(扶助金)請求書

住 所

元何官(何職) 氏

名 印

退隱金(扶助金)年額何百何拾圓

一金何圓何拾錢 明治何年自何月至何月三箇月分給額

何々証明ス

又ハ何々

年 月 日

市町村長 氏

名 印



備考

一、新タニ許可ノ者ハ其ノ許可及起算ノ年月日又死亡其ノ他ノ事故ニ依リ支給額ニ異動アル場合ニ於テハ其ノ年月日及事由ヲ金額ノ次ニ附記スヘシ

一、支給ノ一期ニ滿タザル月額又ハ日割計算ヲ要スルモノハ年額ノミ記載シ支給額ヲ記入セザルモ妨ゲナシ

一、住所ハ何府縣何町村何番屋敷若ハ何番地ト記載スベシ

一、扶助金ノ請求ニ就テハ元神宮職員タリシ者ト扶助金ヲ受クル者トノ續柄ヲ肩書スヘシ

○證明書文例

右本人退隱金(扶助金)ヲ受クル資格ノ消滅又ハ停止ノ事項ナキコトヲ證明ス

右本人某ハ何年何月何日死亡シ同日マデニ退隱金(扶助金)ヲ受クル資格ノ消滅又ハ停止ノ事故ナク且ツ何某ハ其ノ相續人(又ハ何々)ニシテ之ヲ受クベキ正當ノ權利者タルコトヲ證明ス

本人(又ハ何某)ハ退隱金(扶助金)證明ヲ呈示セリ

備考

一、支給停止、一部停止(係給ト差引ヲ爲ストキ)又ハ資格消滅ノ場合ニ於テ一期分ニ滿タザル金額ノ請求ニ付テハ事由ヲ記載シ前記ノ例ニ依リ證明ヲ要ス

(三) 神宮皇學館教官退隱金給與規定

神宮司廳達第十八號 大正二年十月四日

神宮皇學館教官退隱金給與ニ關スル規定左ノ通定ム

○神宮皇學館教官退隱金給與規定

官立公立學校教員タリシ者神宮皇學館教官トナリ在官滿五年以上ニ至リタルトキハ其ノ前官職ニ在リタル年月數(各其ノ規定ニ依リ除算年月數ヲ除ク)ハ之ヲ神宮職員退隱金及遺族扶助金給與規程第一條第一項ノ年數ニ加算ス但シ既ニ恩給又ハ退隱料ヲ受クルモノハ此ノ限リニ在ラズ

(四) 神宮皇學館教官退隱金給與年數加算ノ件

神宮司廳達第十五號 大正三年七月十八日

神宮皇學館教官退隱金給與年數加算ノ件左ノ通り定ム

○神宮皇學館教官退隱金給與年數加算ノ件

明治三十六年勅令第三百三十號神宮皇學館官制發布以前同館教員トナリ引續キ現ニ在官ノ者ニ限  
リ其ノ前教員ニ在リタル年月數ハ之ヲ神宮職員退隱金及遺族扶助金給與規程第一條第一項ノ年  
數ニ加算ス

第五 雇員及囑託員

○内務省訓第二三九號 大正元年十二月十二日

神宮雇員及囑託員ニ關スル規則左ノ通り定ム

○神宮雇員及囑託員ニ關スル規則

第一條 神宮ニ左ノ雇員ヲ置ク

- 神宮司廳出仕 四十三人
- 神宮皇學館雇 三人
- 神宮神部署(出仕) 二十七人
- 神宮神部署(樂員) 十六人

大正二年十一月十四日内務省訓第七〇七號ニヨリ改正  
大正三年四月十六日内務省訓第三八八號ニヨリ改正  
大正四年二月十五日内務省訓第一三七號ニヨリ改正

第二條 徵古館農業館職員ノ定員ハ徵古館農業館職制ノ定ムル所ニ依ル

第三條 神宮大宮司ハ須要ニ應ジ囑託員ヲ置クコトヲ得

第四條 雇員及囑託員ハ神宮大宮司之ヲ命免ス

前項ノ命免ハ神宮皇學館ニ在リテハ神宮皇學館長ニ神宮神部署ニ在リテハ神宮神部署長ニ

徵古館農業館ニ在リテハ徵古館農業館長ニ之ヲ委任スルコトヲ得

第五條 雇員及囑託員ノ俸給手當又ハ報酬ハ左ノ額ヲ超ユルコトヲ得ズ

神宮司廳 出仕

神宮神部署出仕樂員 月額拾八圓

徵古館農業館監守

神宮皇學館 雇 月額二拾圓

徵古館農業館事務員、監守長

園藝手、囑託員

月額五拾圓

第六條 神宮司廳出仕ノ定員中六人ハ當分ノ内神宮神部署雇員中ヨリ兼務ヲ命スルモノトス

明治四十二年  
二月十五日神  
宮司廳達第二  
號ニヨリ修正  
大正元年十二  
月十五日達第  
十九號改正

附 則

第七條 明治三十三年十月内務省訓第九三五號ハ之ヲ廢止ス

第 六 神宮雇員俸給規程

神宮司廳達第八號 明治三十九年九月二十五日

明治三十九年神宮司廳達第八號神宮雇員俸給規程左ノ通相定ム

○神宮雇員俸給規程

- 第一條 俸給ハ毎月二十三日支給ス但シ休日ニ當ルトキハ順延トス
- 第二條 雇入及増俸減俸者ノ俸給ハ發令ノ翌日ヨリ計算スルモノトス
- 第三條 神宮部内轉勤ノ者ハ第二條ノ期日ニ拘ハラズ日割計算ヲ以テ發令ノ當日マデニ係ル俸給ヲ其ノ應ニ於テ支給ス
- 第四條 退職休職若クハ解職ニ依リ其ノ月全額ノ俸給ヲ受ケタルモノ其ノ月復ヒ同一官署ニ採用シタル場合ニ於テハ更ニ其ノ月分ノ俸給ヲ支給セズ但シ前給ニ比シ支給額ノ増加シタル

場合ニ在リテハ増俸ノ例ニ依ル

第五條 病氣ノ爲缺勤六十日ヲ踰ユル者及私事故障ノ爲缺勤二十日ヲ踰ユル者ハ俸給半額ヲ減給ス

公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ缺勤ノ場合及父母ノ祭日、忌引ハ缺勤日數中ニ算入セズ

第六條 兵役ニ在ル者演習ノ爲召集セラレ陸軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ間俸給ノ支給ヲ停止ス但シ其ノ額寡少ナルトキハ不足額ヲ補給ス

第七條 解雇及死亡ノトキハ其ノ月ノ俸給全額ヲ第二條ノ期日ニ拘ハラズ支給ス第五條ニ依リ減給ノ者解雇若ハ死亡ノトキハ其減給ニ係ル當月分ノ金額ヲ支給スルモノトス

第八條 日割計算ノ法ハ其ノ月ノ現日數ニ由ル

第九條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ切捨トス

附 則

本規程ハ明治三十九年十月一日ヨリ施行ス



漢國法歷修學	文語制史身科	釋文法、作文、作歌、作義	釋文法、作文、作歌、作義	釋文法、作文、作歌、作義	釋文法、作文、作歌、作義
第一學期	憲法及皇室典範其ノ他皇室ニ關スル法令大意	一〇	一〇	二	二
第二學期	憲法及皇室典範其ノ他皇室ニ關スル法令大意	一〇	一〇	二	二
第三學期	神祇史及神道大意	一〇	一〇	二	二
第四學期	神祇史及神道大意	一〇	一〇	二	二

隨意科トシテ雅樂ヲ修得セシムルコトアルヘシ

專科第二部學科課程表

計	祭式	漢國文語	法制	歷史
三〇	一〇	一〇	四	五

學科摘要

專科第一部學科課程表

時數	每週	合計	體操	禮式	哲學	英語	漢文	國文
二	三	三	普通禮式	二	倫理學	四	六	六
二	三	三	一	一	宗教學	三	六	六
二	三	三	一	一	實地管理學	三	六	六

數	學	珠	算	三	珠	算	三
習	字			二			
祭	式					祭	式
計		二八		二八			三〇

隨意科トシテ雅樂ヲ修得セシムルコトアルヘシ

第三章 學年、學期及休業

第八條 本科ノ學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第九條 本科ノ學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至リ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十條 専科修業期間ハ第一部ニ在リテハ四月一日ヨリ七月三十一日ニ至ル四箇月間トシ第二部ニ在リテハ之ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至リ第二學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至リ第三學期ハ四月一日ヨリ七月三十一日ニ至ル

第十一條 休業日ハ左ノ如シ

夏季休業 (自七月二十一日至八月三十一日)  
 冬季休業 (自十二月二十五日至翌年一月七日)  
 春季休業 (自四月一日至同月十日)  
 神宮祈年祭 (二月十七日)  
 大祭 祝日  
 本館創立記念日 (四月三十日)  
 日 曜 日

第四章 入學及退學

第十二條 本科學生及専科生徒募集ノ期日及人員ハ官報、新聞紙若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ廣告ス

第十三條 本科第一學年ニ入學セシムヘキ者ハ官公立中學校及徴兵令第十三條ニ依リ文部大臣ノ認定ヲ受ケタル私立中學校卒業者並ニ専門學校入學者試験檢定合格者ニ限ル但シ入學志願者募集定員ニ超過シタル場合ニ於テハ選抜試験ヲ行フ

第十四條 專科第一部ニ入學セシムヘキ者ハ左ノ資格アル者ニ限ル

- 一、中學校又ハ師範學校卒業ノ者
- 二、專門學校入學者試験檢定合格者
- 三、其ノ他館長ニ於テ前二項ニ相當ノ學力アリト認ムル者

第十五條 專科第二部ニ入學セシムヘキ者ハ年齡滿十六歲以上ニシテ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ル

- 一、中學校第三學年修了以上ノ者
- 二、中學校第三學年修了程度ニ於テ左ノ學科試験ニ合格シタル者  
修身、歴史、國語漢文、算術、習字

第十六條 本館ノ身體檢査ニ合格セサル者ハ入學ヲ許サズ

第十七條 入學志願者ハ入學願書(第一號式)ニ履歷書(第二號式)戶籍謄本、中學校學業成績點數及品行ニ關スル當該學校長ノ證明書(第三號式)又ハ專門學校入學者試験檢定合格證書及最近ノ寫眞ヲ添ヘ指定ノ期日迄ニ差出スヘシ

第十八條 入學志願者ハ檢定料トシテ金壹圓ヲ入學願書ニ添ヘ納付スヘシ

第十九條 入學試験ノ評點ハ第三十七條ノ例ニ準ズ

第二十條 入學許可ヲ得タル者ハ二週日以内ニ其ノ父兄又ハ親族ヲ以テ身元保證人ト定メ在學證書(第四號式)ヲ差出スヘシ但シ父兄親族アラザル者ハ公民權ヲ有シ相當資産アル者ヲ以テ保證人ト爲スコトヲ得

前項但シ書ノ保證人ハ其ノ市區町村長ノ身元證明書ヲ在學證書ニ添フルヲ要ス

第二十一條 保證人轉居改印等ヲ爲シタルトキハ速ニ本館ニ届出ツヘシ又一箇月以上旅行セントスルトキハ代理人ヲ定メ本館ニ届出ツヘシ

第二十二條 保證人死去シタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ十日以内ニ證書ヲ差出スヘシ

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アル者ハ除名ス

- 一、正當ノ理由ナクシテ引續キ一箇月以上缺課シタル者又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ一學年以上缺課シタル者
- 二、授業料ノ督促ヲ受ケ一箇月ヲ經ルモ尙之ヲ納付セザル者

三、學年試驗ニ引續キ二回及第セザル者

四、學年試驗ニ及第セザル者ニシテ次學年始業後一週日以上無届缺課シタル者

五、體質虛弱ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

六、怠惰ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

第二十四條 疾病又ハ止ヲ得ザル事故ニ因リ退學セント欲スル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連

署ヲ以テ願出ヅベシ但シ疾病ニ因ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス

第二十五條 兵役ニ服スル爲メ退學シ服役滿期後一箇年以内ニ再入學ヲ請フ者アルトキハ證議ノ上無試験ニテ原級ニ編入スルコトアルヘシ

第五章 特待生、館費生

第二十六條 本科學生中身體強壯品行方正學術優等ニシテ他ノ模範タルヘキ者アルトキハ特待生トス

第二十七條 本科卒業生中學術品行共ニ俊秀ナル者アルトキハ館費生トシテ一箇月金拾貳圓以內ノ學費ヲ給シ更ニ高等ノ學校ニ入ラシムルコトアルヘシ

第二十八條 特待生館費生ハ教員會議ニ諮問シ館長之ヲ撰定ス

第二十九條 館費生ニ撰定セラレタル者ハ保證人ヲ定メ誓約書(書式第五號)ヲ差出スヘシ但シ保證人ハ第二十九條ノ例ニ準ス

第三十條 特待生懲罰ニ付セラレタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

館費生半途廢學シ若ハ學業不進又ハ品行不良ナルトキハ館費生ヲ免シ從來支給シタル學費ヲ即時ニ償還セシム

第六章 進級及卒業

第三十一條 本科學生ノ進級及卒業ハ學業成績ニ依リ之ヲ定ム

第三十二條 學業成績ヲ分チテ左ノ三種トス

一、學期成績

二、學年成績

三、卒業成績

第三十三條 學期成績ハ第一學期第二學期ノ終ニ於テ學期試驗ヲ行ヒ平素ノ成績ヲ參按シ之ヲ



定ム

第三十四條 學年成績ハ每學年ノ終ニ於テ學年試験ヲ行ヒ其ノ成績ト各學期成績トヲ平均シテ之ヲ定ム

第三十五條 試験ハ學科ノ性質ニ依リ之ヲ省キ若ハ臨時ニ行フコトアルヘシ

第三十六條 各學科ノ成績ハ一百點ヲ以テ滿點トス

第三十七條 學年成績ニ於テ各學科ノ成績五十點以上總平均點六十點以上ヲ及第トス

第三十八條 卒業成績ハ各學科ニ就キ各學年ノ學年成績ヲ合セ其ノ學年ノ數ヲ以テ除シテ得タルモノトス

第三十九條 專科生徒ノ學期成績及卒業成績ハ第三十三條、第三十五條、第三十六條、第三十七條ヲ參按シ之ヲ定ム

第四十條 疾病其ノ他不得止事故ノ爲メ試験ニ缺席シタル者又ハ兵服ニ服スル爲メ試験ヲ受クルコト能ハサル者ハ詮議ノ上特別試験ヲ行フコトアルヘシ

第四十一條 本館所定ノ學科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第七章 授業料

第四十二條 授業料ハ一箇月本科ハ金貳圓專科ハ金壹圓トシ毎月之ヲ納付セシム但シ八月ハ之ヲ徴收セズ

明治四十四年三月神宮司廳達第四號授業料改正以前ノ額ニ依リ納付スル者ハ舊額ニ依リ之ヲ納付スベシ

第四十三條 授業料ハ毎月三日(一月四月ハ十五日)本館庶務部ニ納付スヘシ但シ納付期日休日に當ルトキハ順次繰下グ

第四十四條 既納ノ授業料ハ何等ノ場合ト雖モ之ヲ返付セズ

第八章 賞罰

第四十五條 特待生ニ撰定セラレタル者又ハ寮長若ハ炊事委員長ノ職ニ就キ克ク其ノ責務ヲ盡シタル者ニハ物品書籍等ヲ賞與スルコトアルヘシ

第四十六條 館則其ノ他命令規則ニ背戾シ又ハ本館ノ學生生徒タル體面ヲ汚シタル者ハ之ヲ懲罰ス懲罰ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一、謹 責
- 二、謹 慎
- 三、放 校

第九章 寄宿寮

第四十七條 本館ニ寄宿寮ヲ置キ本科學生ヲ寄宿セシム

第四十八條 本科學生ハ左ノ各號ニ該當スル者ノ外通學スルコトヲ許サズ

一、學館ヲ離ルル一里半以内ニ居住スル父兄ノ家ニ在ル者ニシテ父兄ノ出願ニ依リ期限ヲ定メ外宿ヲ許シタル者但シ第一學年生第二學年生ハ一切外宿ヲ許サズ

二、本人疾病ノ爲メ外宿ヲ許シ又ハ本館ノ都合ニ依リ臨時外宿ヲ命シタル者

三、旅行歸省其ノ他止ヲ得サル事由ニ因リ所要ノ日數ヲ限リ外宿ヲ許シタル者

第四十九條 本則施行ニ關スル細則ハ神宮大宮司ノ認可ヲ經テ神宮皇學館長之ヲ定ム

附 則

第五十條 現在專科生タル者ニ付テハ仍ホ舊規則ニ據ルモノトス

(書式第壹號)

入 學 願 書 (濶用紙美紙通)

私 義

御館本科第壹學年(專科第一部又ハ專科第二部)へ入學仕度候ニ付御許可相成度此段奉願候也

道、廳、府、縣、郡、市、區、町、村、字、番地  
華、士族 戶主又ハ戶主トノ續柄

年 月 日

氏

名 印

年 月 日 生

神宮皇學館長 氏 名 殿

(書式第貳號)

履 歷 書 (用紙美濃紙壹通 氏名ニハ傍訓ヲ施スヘシ)

本 籍 道、廳、府、縣、郡、市、區、町、村、字、番地

現住所 全

華、士族戸主又ハ戸主トノ續柄

氏

名

年月日生

學

業

(中學校卒業證書又ハ專門學校入學者  
試験檢定合格證書等ノ寫ヲ添フヘシ)

一何年何月何日何地官公私立何學校ニ入學

一何年何月何日何學校卒業又ハ何學年修了退學

一何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何某ニ就キ何學修業

一何年何月何日何學校ニ於テ專門學校入學者試験檢定ヲ受ケ合格ス

職

業

一何年何月何日何官職拜命又ハ何業ニ從事ス

一何年何月何日退官職又ハ廢業

賞 罰

一何年何月何日何所ニ於テ何賞罰ヲ受ク  
右之通相違無之候也

年 月 日

氏

名 印

(書式第三號)

學業成績證明書 (用紙美濃紙)

道、廳、府、縣、華士族

氏

名

年月日生

右ノ者何年何月何日日本校第何學年ニ入學何年何月何日日本校卒業(又ハ本校ニ於テ專門學校  
入學者試験檢定ニ合格)シタル者ニシテ本校在學中ノ成績(又ハ試験成績)操行左ノ通ニ相  
違無之候也

年 月 日

何學校長 氏

名 印

神宮皇學館長 氏 名 殿

學業成績表

學級科目	修身						平均	席次	操行
	何	何	何	何	何	何			
第一學年								何人中 第何番	
第二學年									
第三學年									
第四學年									
第五學年									

備考 專門學校入學者試験檢定ノ合格者ニ在リテハ試験科目及其ノ評點並ニ合格者總人員中ノ席次ヲ掲クルモノトス

(書式第四號)

參錢收  
入印紙

在學證書 (用紙美濃紙  
壹通)

私儀今般入學御許可相成候ニ就テハ御規則堅ク相守リ專心ニ勉勵可致ハ勿論卒業ニ至ル迄

濫ニ轉學退學等致間敷候仍テ證書如此ニ候也

本籍地、族籍、職業

戶主又ハ戶主トノ續柄

氏 名印

年月日生

右何某在學中御規則堅ク可爲相守ハ勿論退學後タリトモ同在在學中ニ係ル一切ノ事件ハ拙者ニ於テ引受可申候此段保證仕候也

住所

何某父兄伯叔父又ハ縁故者等

族籍職業

保證人 氏 名印

年月日

年月日生

神宮皇學館長 氏 名殿

(書式第五號)

參鈔收  
入印紙

誓約書 (用紙美濃紙)

私儀今般御館々費生ニ御選抜被下候ニ就テハ館費規則ヲ遵奉可致ハ勿論成業後滿一箇年以  
内ニ於テ御命令有之候節ハ學資ノ給與ヲ受ケタル年數ト均シキ年限内御館御指定ノ職務ニ  
従事可仕此段誓約仕候也

本籍地 住所

卒業生 氏

名印

右何某今般御館々費生ニ御選抜被下候ニ就テハ右誓約書ノ通本人ヲシテ其ノ義務ヲ履行セ  
シムヘキハ勿論萬一半途廢學若ハ其ノ他事故ノ爲學資償還ヲ命セラレ本人ニ於テ其ノ債務  
相怠リ候節ハ拙者ニ於テ必辨償可仕此段保證仕候也

本籍地 住所

保證人 氏

名印

年月日

神宮皇學館長 氏 名殿

### 第一 神宮皇學館學生取締規則

神宮皇學館訓令第二號 大正三年四月八日

神宮皇學館學生取締規則左ノ通定ム

#### ○神宮皇學館學生取締規則

第一條 學生ハ本館ノ規則命令ヲ遵奉シ苟モ學生タル體面ヲ汚ス所行アルヘカラズ

第二條 學生ハ始業時間ヨリ終業時間迄(祭式ノ時間ヲ除ク)ハ必ず制服ヲ着用シ本館所定ノ式  
日並ニ神宮參拜等凡テ隊伍ヲ整ヘ行動スル場合ニハ必ず制服制帽ヲ着用シ其ノ他ハ館ノ内  
外ヲ問ハズ制服若クハ袴ヲ著シ外出ノ際ハ必ず正帽ヲ著スヘシ但シ平常ノ場合ニ限り夏期  
ニ於テハ徽章アル麥藁帽ヲ以テ制帽ニ代フルコトヲ得

第三條 集會其ノ他學生間ニテ催ス共同事件ハ豫メ學生監ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 學生ハ寮ノ内外ヲ問ハズ非常ノ事アルトキハ凡テ學生監ノ指揮ニ從フヘシ

第五條 館則第五十八條第二項第三項ニ據リ外泊ヲ許可セラレタル學生ハ父兄ノ家ニ在ル者ノ外本館所定ノ禁止區域内ニ止宿スルコトヲ得ズ但シ禁止區域ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 外泊生轉宿シタルトキハ速ニ届出ツヘシ

第七條 病氣其ノ他事故ノ爲メ缺席セントスルトキハ其事由ヲ具シ事前ニ届出ツヘシ

第八條 引續キ三日以上缺席セントスルトキハ病氣ニ因ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ事故ニ因ルモノハ保證人ノ證明書ヲ添フヘシ但シ診斷書ハ場合ニ依リ館醫ノ作爲シタルモノニ限ルコトアルヘシ

第九條 學生ヨリ差出ス願届ハ總テ館長ニ宛テ學生監部ニ差出スヘシ

第十條 病氣其ノ他事故ノ爲メ歸省又ハ旅行セントスルトキハ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ但シ父兄ノ病氣等至急ヲ要スル場合ニ限リ電報又ハ來狀ヲ以テ保證人ノ連署ニ代フルコトヲ得

第十一條 前條ノ歸省旅行ニシテ一週間ニ亘ルトキハ本館ヨリ借用セル圖書物品ヲ返納スヘシ

第十二條 本館ノ圖書物品ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ其ノ情狀ノ如何ニ依リ之ヲ辨償セシム

ルコトアルヘシ

第十三條 本館又ハ教務庶務學生監部ヨリ發スル命令規則等ノ揭示ハ特ニ注意シテ熟讀スヘシ

### 第二 神宮皇學館寄宿寮規則

神宮皇學館訓第壹號 大正四年五月七日

神宮皇學館寄宿寮規則ヲ左ノ通相定明治四十一年三月達第壹號神宮皇學館學寮規則ハ之ヲ廢止ス

### ○神宮皇學館寄宿寮規則

#### 第一章 總 則

第一條 本館ニ寄宿寮ヲ置キ特ニ通學ヲ許可シタル者ノ外總テ入寮セシム

第二條 寄宿寮ハ之ヲ精華寮ト稱ス

第三條 精華寮ハ夏季休業中之ヲ閉鎖ス

#### 第二章 費用負擔

第四條 左ニ掲グル費用ハ入寮生ノ負擔トス

一、食費及食器費

二、舍費（自修室學生集會所及喫茶室電燈料、薪炭費、窓掛蚊帳火鉢補充費、便所消毒費救急材料費等）

三、寮費（新聞雜誌圖書集會費、旅行費等）

前項ノ諸費ハ毎月五日迄ニ學生監部ニ納付スヘシ

第五條 食費及食器費及寮費ノ定額ハ寮生總會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

舍費ノ定額ハ館長ノ定ムル所ニ依ル

第六條 舍費寮費ハ互ニ流用スルコトヲ得ズ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ寮生總會ノ決議ヲ經館長ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 每學年ノ終ニ於テ舍費寮費ニ剩餘ヲ生ジタルトキハ各別ニ之ヲ積立ツルモノトス積立金ヲ使用セントスルトキハ寮生總會ニ於テ之ヲ決議シ館長ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 精華寮ハ負債ヲ爲スコトヲ得ズ

### 第三章 役員

第九條 精華寮ニ左ノ役員ヲ置ク

寮長三名 炊事委員長一名 室長若干名

寮長炊事委員長ノ任期ハ壹ケ年トシ每學年初ニ之ヲ撰任ス

室長ノ任期ハ一學期間トシ每學期初ニ之ヲ撰任ス

役員ハ總テ無報酬トス

第十條 館則ニ依リ懲罰ヲ受ケタルコトアル者ハ役員タルコトヲ得ズ役員就職中懲罰ニ處セラレタルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

第十一條 寮長炊事委員長ハ寮生ノ互選ニ依リ定員倍數ノ候補者ヲ推薦セシメ館長之ヲ撰擇任命ス

室長ハ學生監部長之ヲ撰任ス

第十二條 寮長ハ學生監ノ指揮命令ニ從ヒ所屬室長ヲ指導シ寮務ヲ處理ス

室長ハ寮長ノ指導ニ從ヒ寮務ヲ分擔ス

第十三條 炊事委員長ハ自炊ニ關スル一切ノ事務ヲ處理ス

第十四條 學生監部長ハ學生中ヨリ炊事委員若干名ヲ撰任シ炊事委員長ヲ助ケ炊事ノ事務ヲ分擔セシム

炊事委員ノ任期ハ學生監部長之ヲ定ム

第十五條 學生監部長ハ寮生總會ノ決議ニ依リ有給ノ炊事掛又ハ給仕ヲ置クコトヲ得

第四章 協議會

第十六條 協議會ヲ分チテ役員會及寮生總會ノ二種トス

役員會ハ食費及寮費ノ支辨方法其ノ他寮内共同生活ニ關スル事項ヲ決議ス

寮生總會ニ於テハ本則規定事項ノ外館長又ハ學生監ノ諮問ニ答申シ又ハ寮務若ハ寮生ノ制裁ニ關シ建議ヲ爲スコトヲ得

協議會ノ議長ハ學生監部長若ハ部員ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 協議會ハ議長之ヲ召集ス

寮生ハ總員四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ臨時寮生總會ノ開會ヲ請願スルコトヲ得

第十八條 協議會ハ役員又ハ寮生三分ノ二以上出席スルニ非レバ之ヲ開クコトヲ得ズ

協議會ノ決議ハ出席者半數以上ノ同意アルヲ要ス可否同數ナルトキハ議長ノ裁決スル所ニ依ル

本則第六條第七條ノ決議及第十六條第三項中寮生ノ制裁ニ關スル建議ハ寮生四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十九條 協議會ニ於テ決議若ハ建議シタル事項ハ館長ノ認可ヲ經ルニ非ラサレバ之ヲ實行スルコトヲ得ズ

第二十條 本則第十一條ノ選舉及第十六條第三項寮生ノ制裁ニ關スル表決ハ匿名投票ヲ以テスヘシ

第五章 細則

第二十一條 會食ノ順次學生集會所病室ノ使用及賣店ニ關スル件及寮生ノ起床朝拜點檢食事入浴面會外出消燈寮内定期及臨時大掃除ニ關スル規定ハ學生監部長之ヲ定メ館長ノ認可ヲ受クヘシ



明治四十二年  
二月十二日  
神宮司訓令乙  
第二號ニヨリ  
修正ス  
大正四年八月  
三十日神宮司  
訓令第一〇  
號ニヨリ改正  
大正五年三月  
二十三日神宮  
司訓令第四  
號ニ依り改正

第四 服 制

神宮司應訓令乙第四號 明治三十八年七月二十八日

神宮皇學館學生服制内務大臣ノ認可ヲ得テ別紙ノ通り相定ム

○神宮皇學館學生服制

第一條 神宮皇學館學生制服制帽ノ製式ハ別表ニ依ル

第二條 制服制帽ハ十月一日ヨリ五月三十一日迄ノ間ハ甲種六月一日ヨリ九月三十日迄ノ間ハ

乙種ヲ用フ但シ特別ノ場合ニ於テハ本條ノ期限ニ拘ハラズ甲種ヲ着用セシム

第三條 新ニ入學スル者ハ其ノ入學許可ノ日ヨリ三週間以内ニ制服制帽ヲ調製スベシ

第四條 本規程ハ來ル九月一日ヨリ施行ス

地質	本	科	生
徽章	黒絨		
	豎八分五厘 横七分 厚壹分金色形狀如圖		

衣上				帽			
乙種		甲種		乙種		甲種	
形 狀	袖 釦	釦	地 質	形 狀	頤 紐	眼 庇	横 章
甲種ニ全ジ	甲種ニ全ジ	甲種ニ全ジ	霜降小倉織	立襟脊廣形如圖	輪畫ノ中央ニ花菱ヲ顯シ全部金色直徑七分 全部金色直徑五分ニ個宛	黒革 表裏黒	白線壹分五厘一條
					輪畫ノ中央ニ花菱ヲ顯シ全部金色直徑七分	黒革幅三分釦金色櫻花章	
					全部金色直徑五分ニ個宛	海軍形如圖	
					立襟脊廣形如圖	甲種帽ヲ白布ニテ覆フ	
						黒色ヘル	

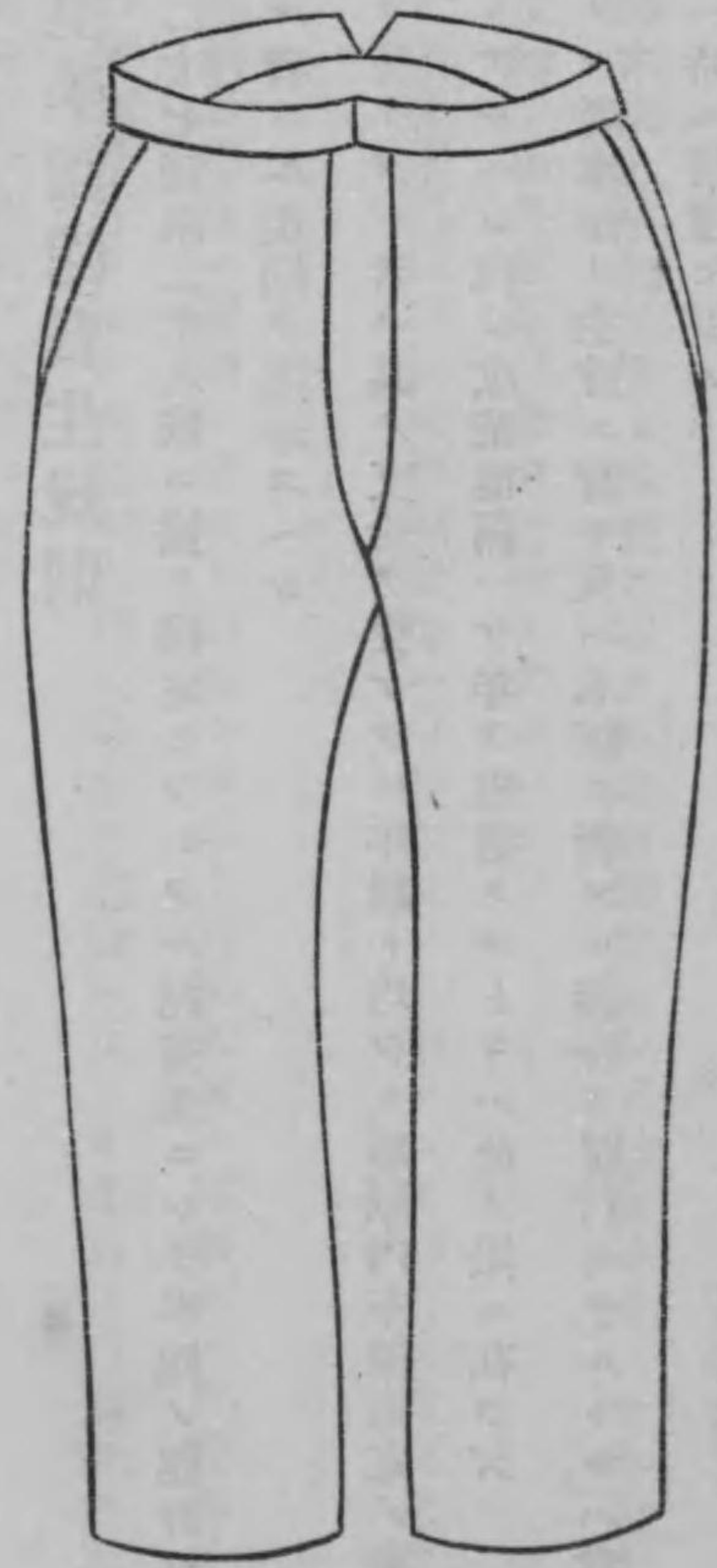


上衣前面

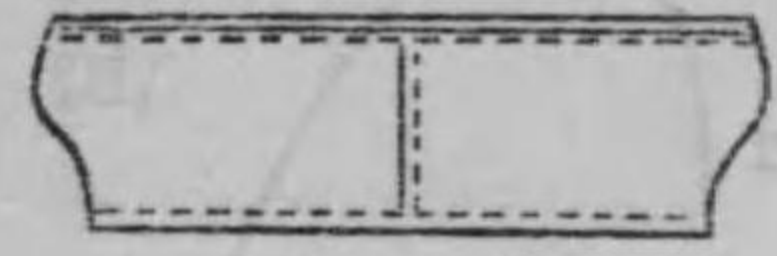
上衣背面

卷 脚 胖	袴				
	乙種		甲種		
形 狀	地 質	形 狀	地 質	形 狀	地 質
幅約二寸兩縁ミシン縫紐締トス	茶褐絨	普通	霜降小倉織	普通	黒色ヘル

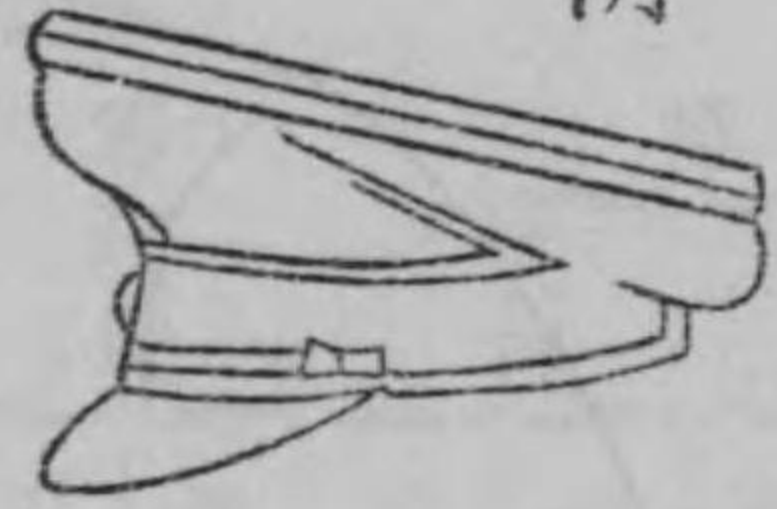
袴



日覆



帽



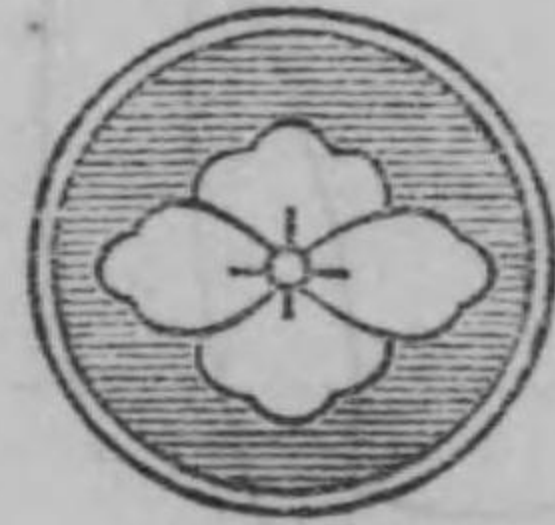
徽章



釦



釦



第五 神宮皇學館館費生規則

神宮皇學館訓令第二號 大正四年八月二日

神宮皇學館館費生規則左ノ通定ム

○神宮皇學館館費生規則

- 第一條 本館規則第二十七條第二十八條ニ據リ撰定セラレタル館費生ニシテ本館ノ認許シタル學校ヲ卒業シタル者ハ本規則ヲ遵奉スヘシ
- 第二條 館費ノ支給ヲ受ケタル者ハ其ノ支給ヲ受ケタル年數ト均シキ年限内本館指定ノ職務ニ従事セシムルコトアルヘシ但シ成業後滿一ケ年ヲ經過スルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第三條 館費ヲ受ケタル者本館ノ主旨ニ背キ又ハ本館ニ對スル義務ヲ履行セサルトキハ管テ給與シタル館費ヲ一時ニ償還セシム
- 第四條 本館規則第二十九條ニ據リ差出シタル誓約書ハ其ノ義務解除シタルトキ之ヲ返付スヘシ

第六 神宮皇學館外國留學生規程

○神宮皇學館外國留學生規程

明治四十年三月十六日  
秘甲第一一號大宮司上申

全四十年四月四日秘乙第一〇八號內務大臣認可

- 第一條 神宮皇學館本科ヲ卒業シ更ニ帝國大學本科ヲ卒業シタルモノニシテ同館教育上必要ノ場合アル時ハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ館費ヲ以テ外國留學生トシテ旅費並ニ一ケ年金千八百圓以内ノ學費ヲ支給シ海外留學ヲ命ズルコトアルベシ
- 第二條 前條留學生ノ研究學科留學國留學期限等ハ皇學館長ノ具申ニヨリ神宮大宮司之ヲ指定ス
- 第三條 神宮皇學館外國留學生ハ歸朝ノ日ヨリ滿五ケ年以上同館教官ニ従事スヘキ義務ヲ有ス
- 第四條 神宮皇學館外國留學生ニシテ神宮大宮司ノ命令ニ違背シ又ハ不都合ノ行爲アル時ハ神宮大宮司ハ其支給シタル學費ヲ償還セシム

○神宮皇學館外國留學生規程細則

明治四十年四月廿六日  
庶甲第四九號館長上申

全四十年五月一日房收第三五號大宮司認可

- 第一條 神宮皇學館外國留學生ヲ命セラレタル時ハ七日以内ニ誓書ヲ差出スヘシ
- 第二條 神宮皇學館外國留學生本邦出發前疾病ニ罹リタル時ハ身體検査ヲ行ヒ留學生ヲ免スルコトアルヘシ
- 第三條 神宮皇學館外國留學生本邦ヲ出發スル時及留學國ニ到着シタルトキハ七日以内ニ出發届到着届ヲ館長ヲ經テ神宮大宮司ニ差出スヘシ
- 第四條 神宮皇學館外國留學生留學國ニ於テ學業ニ就キタル時ハ三日以内ニ就學届ヲ館長ヲ經テ神宮大宮司ニ差出スヘシ
- 第五條 神宮皇學館外國留學生ハ自己ノ便宜ニヨリ留學中半途歸朝スルコトヲ得ズ但シ疾病ニ依リ留學ニ堪ヘ難キ時ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ許可ヲ受クヘシ
- 第六條 神宮皇學留外國留學生ハ神宮大宮司ノ許可ヲ受クルニアラサレバ指定留學國以外ニ轉學スルコトヲ得ズ
- 第七條 神宮皇學館外國留學生ニハ別表ニヨリ往復旅費支度料及ヒ學費ヲ支給ス但シ數箇國ニ留學スル者ノ支度料ハ其ノ多キ額ニ依ル

- 第八條 神宮皇學館外國留學生本邦出發前死亡シタルトキハ支度料ノ半額ヲ支給シ其出發後死亡シタルトキハ死亡地ヨリ本邦出港迄外國旅費規則第十三條ニヨリ判任官ニ準シ旅費ヲ支給ス
- 第九條 神宮皇學館外國留學生旅費定額支給ノ場合ニ於テ旅行中疾病變災其他避クヘカラザル事由ニ依リ同一地ニ滞在スルコト七日ヲ超過スル時ハ其超過日數ニ對シ清韓ニ在リテハ日額金六圓其他ノ外國ニ在リテハ日額金九圓五拾錢ノ割合ヲ以テ別ニ旅費ヲ支給ス但シ船舶中ノ滞在ハ此限リニアラズ
- 第十條 神宮皇學館外國留學生ノ學資ハ留學國到着ノ翌日ヨリ歸朝ノ途ニ就ク前日迄月割及日割ノ計算法ニヨリ之ヲ支給ス
- 第十一條 神宮皇學館外國留學生ノ學資ハ毎年度ノ始ニ於テ六箇月分七月及十月ニ於テ各三ヶ月分前金渡ヲ以テ支給ス但シ特別ノ事由アルトキハ此限ニアラズ
- 第十二條 神宮皇學館外國留學生本細則第九條ノ場合ニ於テハ病氣ハ醫師ノ診斷書其他ハ適當ノ證據書類ヲ添ヘ届出ツベシ

第十三條 神宮皇學館外國留學生ハ留學滿期ノ翌日就學地ヲ出發歸朝スベシ但シ止ムコトヲ得  
 ザル事由ニ依リ出發シ難キトキハ事由ヲ具シテ其旨届出ノ上十四日以内滞在スルコトヲ得  
 第十四條 神宮皇學館外國留學生ハ學資旅費等送達ヲ受クル爲メ宿所又ハ場所ヲ指定シ届出ツ  
 ヘシ

(別表)

外國留學生旅費支度料學資定額表

留學國名	往復旅費	支度料	學資
獨逸	八二〇〇〇 <small>片道</small>	二〇〇〇〇	一、八〇〇〇
佛蘭西	八〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一、八〇〇〇
英吉利	八〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一、八〇〇〇
埃洪	八二〇〇〇	二〇〇〇〇	一、八〇〇〇
瑞西	八〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一、八〇〇〇

西班牙	八二〇〇〇	二〇〇〇〇	一、八〇〇〇
葡萄牙	八五〇〇〇	二〇〇〇〇	一、八〇〇〇
露西亞	九五〇〇〇	二〇〇〇〇	一、八〇〇〇
白耳義	八〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一、八〇〇〇
和蘭	八〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一、八〇〇〇
伊太利	八〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一、八〇〇〇
亞米利加 亞細亞 及 其 以 東	八〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一、八〇〇〇
亞細亞 及 其 以 東	七〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一、八〇〇〇
清	一四〇〇〇	一五〇〇〇	一、八〇〇〇
韓	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一、八〇〇〇

第七 神宮皇學館圖書閱覽規程

神宮皇學館訓令第二號 大正二年五月十二日

神宮皇學館圖書閱覽規程左ノ通相定ム

○神宮皇學館圖書閱覽規程

- 第一條 本館ノ圖書ハ之ヲ書庫ニ收藏シ圖書閱覽室ヲ設ケテ職員學生生徒ノ閱覽ニ供ス
- 第二條 本館ノ圖書ニシテ授業若ハ執務上特ニ必要ノモノハ館長ノ許可ヲ經テ一定ノ個所ニ備ヘ置クコトヲ得
- 第三條 學生生徒ノ教科用書ニシテ本館收藏ノ圖書ハ差支ナキモノニ限リ之ヲ貸付スルコトヲ得
- 第四條 圖書閱覽室ハ本館休日ヲ除キ毎日始業一時間前ヨリ午後九時迄之ヲ開ク但シ臨時之ヲ開閉シ若ハ時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ
- 第五條 圖書ヲ借受ケムトスル者ハ所定ノ用紙ニ書名冊數函架番號月日氏名(學生生徒ハ學級名ヲモ附記スヘシ)ヲ詳記シ捺印ノ上係員ニ差出スヘシ
- 第六條 圖書閱覽室ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ音讀談話喫煙其ノ他他人ノ妨害トナルヘキ行爲アルヘカラズ
- 第七條 圖書閱覽室ニ於テ閱覽ノ爲借受ケ得ヘキ圖書ノ數ハ一時ニ三部十冊以内トス

- 第八條 圖書閱覽室ニ於テ閱覽ヲ了リタルトキハ直ニ係員ニ返納スヘシ
- 第九條 本館職員ハ書庫ニ入りテ圖書ヲ檢索スルコトヲ得
- 第十條 本館教官ハ十部三十冊其ノ他ノ職員ハ五部十冊ヲ限リ圖書ヲ借受ケ書庫外ニ携出スルコトヲ得
- 第十一條 前條ニ據リ携出シタル圖書ハ毎年七月十五日迄ニ悉皆返納スヘシ但シ時宜ニ依リ臨時返納セシムルコトアルヘシ
- 第十二條 携出シタル圖書ハ轉貸ヲ許サス
- 第十三條 圖書借受中之ヲ紛失シ或ハ毀損汚染シタルトキハ同一ノ圖書若ハ相當ノ代價ヲ以テ辨償セシム
- 前項ノ手續未了中ハ更ニ他ノ圖書ヲ借受クルコトヲ得ス

第八 神宮參拜規程

神宮皇學館訓令第三號 大正二年十一月二十日

神宮參拜規程左ノ通り定ム

○神宮參拜規程

第一條 參拜ニ出向ノ際ハ左ノ服裝ヲ爲スベシ

職員 通常服シ「ルクハット」又ハ黒山高帽 但シ病氣其ノ他事故アルトキハ紋付羽織袴ヲ以テ代用スルコトヲ得

學生 制服、制帽

第二條 全學生ヲ以テ左ノ五個分隊ヨリ成ル一個中隊ヲ編制シ學生監ノ指揮ニ付ス

第一分隊 本科第四學年生

第二分隊 本科第三學年生

第三分隊 本科第二學年生

第四分隊 本科第一學年生

第五分隊 專科生

第三條 各分隊ハ身長ノ順位ニ依リ隊伍ヲ編制シ級長(第五分隊ニ在リテハ第二學年級長)ヲ以

テ分隊長ニ充ツ

第四條 中隊ハ分隊順ニ整列シ分隊長ハ各其ノ所屬分隊ノ右翼ニ占位ス

中隊ノ行進ハ四列側面縱隊トシ分隊長ハ各其ノ所屬分隊ノ先頭左側ニ占位スベシ

兩宮共表參道御橋以內ハ二列側面縱隊ヲ以テ行進ス

第五條 參拜ハ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フ

- 一、職員ハ二列トナリテ板垣御門内ニ參入シ外玉垣御門前ニ整列ス次ニ館長進ミテ列ノ中央前約二步ノ地位ニ占位シ一同ト共ニ拜禮ヲ行フ拜禮了レバ職員ハ右側面向キヲ爲シ御門外ニ退出ス 館長ハ御門側適宜ノ地点ニ就キ學生ノ拜禮了ルヲ待テテ退出ス
- 二、學生ハ分隊長ノ指揮ニ依リ一分隊毎ニ二列側面縱隊ヲ以テ板垣御門内ニ參入シ外玉垣御門前ニ整列ス次ニ分隊長進ミテ隊ノ中央前約二步ノ地点ニ占位シ分隊ト共ニ拜禮ヲ行ヒ了リテ右側面向キヲ爲シテ御門外ニ退出シ豫メ示サレタル地点ニ停止シテ後命ヲ待ツヘシ

第六條 分隊長ハ板垣御門外ニ於テ脱帽ヲ命ジ御門退出後着帽ヲ命ズベシ



第七條 拜禮ヲ行フニハ上體ヲ靜カニ前方ニ屈シ兩手ヲ兩脚ニ添ヘテ垂下シ兩膝關節上ニ達セシメ暫時其ノ姿勢ヲ保チ然ル後徐々ニ上體ヲ起スヘシ

附 則

天候其他止ムヲ得ザル場合ニハ本規程ニ依ラズ機宜ノ命令ヲ發スルコトアルベシ

### 第九 神宮皇學館特別試驗規程

神宮皇學館訓第二號 大正四年七月十日

神宮皇學館特別試驗規程左ノ通定ム

#### ○神宮皇學館特別試驗規程

第一條 館則第四十條ノ特別試驗ハ學年試驗及學期試驗ニ缺席シタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキニ限り之ヲ許可スルコトアルヘシ

- 一、本人或ハ父母ノ疾病ノ爲メ缺課シタルトキ
- 二、父母祖父母兄弟姊妹妻子死亡ノ爲メ學生生徒喪暇規程ニ依リ缺課シタルトキ

三、軍隊又ハ官衙ヨリ召集召喚セラレタルトキ

四、兵役ニ服スル爲メ退學セントスルトキ

第二條 前條ノ場合ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ試驗ヲ行ハズ

一、每學期ノ缺課時數其學期ノ授業時數ニ比シ授業時數ノ三分ノ二ヲ超ユルトキ但シ第二學期ニ限り格別ノ事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二、前學期又ハ前二學期ノ試驗成績劣等ナルトキ

三、次學年若ハ次學期ノ始メニ於テ直ニ出願セザルトキ

四、特別試驗ノ定日ニ再ビ缺席シタルトキ

第三條 特別試驗ノ評點ハ其得點ノ百分ノ九十九ヲ與フ但シ第一條第四號ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 學期試驗ニ缺席シ特別試驗ヲ受ケタル者ハ第一條ニ該當スル者ニ限り詮議ノ上補缺點トシテ他ノ學期試驗ノ得點ノ百分ノ六十ヲ與フルモノトス但シ第二條第二號ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十 神宮皇學館學生生徒喪暇規程

神宮皇學館訓第三號 大正四年七月十日

神宮皇學館學生生徒喪暇規程左ノ通定ム

○神宮皇學館學生生徒喪暇規程

- 第一條 學生生徒ノ父母祖父母兄弟姉妹妻子死亡シ服忌ヲ受クルトキハ直ニ届出ツヘシ
- 第二條 前條服忌ヲ受クル場合ニハ此ノ規程ニ依リ喪暇ヲ與フヘシ
- 第三條 父母ノ喪暇ハ五日祖父母兄弟姉妹妻子ノ喪暇ハ三日トス
- 第四條 喪暇ハ本人カ訃音ニ接シタル日ヨリ起算ス
- 第五條 喪暇中ハ本人ノ請願ニ依リ歸省又ハ外宿ヲ許可ス但シ此ノ場合ニハ往復ニ要スル日數ヲ喪暇ニ加算ス
- 第六條 葬式ノ當日ハ缺課セシム
- 第七條 喪暇中及葬式當日ハ缺課時數ニ算入セズ

第十一 神宮參拜日及勅語捧讀日

神宮司應達第三一號 明治三十二年十一月二十二日

神宮參拜日及勅語捧讀日ヲ左ノ通相定候ニ付參拜日ニハ職員學生生徒一同參拜シ捧讀日ニハ同ジク捧讀式ニ參列スヘシ

一 神宮參拜日

- 二月十七日 (神宮祈年祭) 兩大神宮
- 十月十六日 (神嘗祭) 豐受大神宮
- 十月十七日 (全 上) 皇大神宮
- 十一月廿三日 (新嘗祭) 兩大神宮

一 勅語捧讀日

- 一月 一日 新年拜賀日
- 二月十一日 紀元節

大正三年五月十五日神宮司應達第一二號ニヨリ改正  
大正三年十月三十日神宮司應達第十八號ニヨリ改正

十月三十日 勅語發布日

十月三十一日 天長節祝日

卒業式日

- 一 參拜及捧讀日參集時刻並ニ儀式次第ハ其都度揭示スベシ
- 一 參拜捧讀式ニハ事故ナクシテ不參スルコトヲ得ズ但病氣其他不得已事故アルトキハ必時刻前届出ヘシ

### 第十二 創立記念日

神宮司應達第二九號 明治三十五年十一月二十五日

毎年四月三十日ヲ以テ皇學館創立記念日ト定ム

神宮皇學館

### 第十三 評議委員會規程

#### ○神宮皇學館評議委員會規程

第一條 神宮皇學館官制第八條ニ依リ神宮皇學館ニ評議委員會ヲ置ク

第二條 評議委員ハ教育上經驗ヲ有スル者及内務省高等官ノ内ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 評議委員會ハ學科課程其ノ他館長ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ審議シ又ハ内務大臣ノ諮問ニ答申スルモノトス

問ニ答申スルモノトス

第四條 評議委員會ノ會議ハ館長之ヲ開キ其ノ議案ヲ提出スベシ但シ評議委員ノ意見アルトキハ之ヲ議案トナスコトヲ得

第五條 評議委員會ノ決議ハ館長ヨリ神宮大宮司ヲ經テ内務大臣ニ報告スルモノトス

大正二年十一月二日神宮司應訓令第十八號ニヨリ改正  
 大正三年一月二十九日神宮司應訓令第一號ニヨリ改正  
 大正三年十月三十日神宮司應訓令第一號ニヨリ改正  
 大正四年八月三十日神宮司應訓令第一號ニヨリ改正  
 大正五年三月二十五日神宮司應訓令第二號ニヨリ改正

第五章

第一處務

(一) 處務規程

神宮司應訓令第一七號 大正二年十月十六日

神宮皇學館處務規程左ノ通改正ス

○神宮皇學館處務規程

- 第一條 神宮皇學館長ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外左ニ掲グル事項ハ之ヲ專決スルコトヲ得但シ特ニ重要ノ關係アルモノ又ハ事ノ異例ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 一 部下職員ノ出張
  - 二 部下職員ノ看護歸省墓參轉地療養若ハ忌引賜暇中ノ旅行
  - 三 部下職員ノ除服出仕
  - 四 部下職員ノ受験願

- 五 月俸二十圓ヲ超ヘサル雇員及月手當五十圓ヲ超ヘサル囑託員ノ採用解免
  - 六 部下職員ノ賞與
  - 七 神宮皇學館及附屬土地建物ノ管理
  - 八 物品會計規則第十六條第二項但書ニ於ケル吏員ノ命令
- 第二條 第一條第三號第五號及第六號ニ付テハ專決ノ都度氏名其ノ他ノ要件ヲ神宮大宮司ニ報告スベシ

第三條 神宮皇學館長ハ經伺ノ上左ノ規定ヲ設クルコトヲ得

- 一 館務分掌規程
- 二 館員服務心得
- 三 貸費生及館費生ノ義務ニ關スル細則

第四條 第一條及第三條各號以外ノ事項ニシテ制規定例トナルヘキモノヲ設定シ若ハ改廢シタルトキハ其ノ都度全文ヲ掲ゲ神宮大宮司ニ報告スベシ但シ神宮公報ニ登載スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 神宮皇學館長ハ前學年中施行シタル學事及事務ノ狀況ヲ毎年四月末日迄ニ神宮大宮司ニ報告スヘシ

附 則

本規程ハ大正二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス明治四十四年十一月二十八日神宮司應訓令乙第一號同四十五年二月四日神宮司應訓令乙第一號ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(二) 館務分掌規程

神宮司應訓令第五號 大正二年四月二十四日

神宮皇學館館務分掌規程左ノ通改正ス

○神宮皇學館館務分掌規程

第一條 神宮皇學館ニ教務部、庶務部及學生監部ヲ置ク

第二條 各部ニ部長一名及部員若干名ヲ置ク

第三條 部長ハ館長ノ命ヲ承ケ各主管ノ事務ヲ掌理ス

部員ハ部長ノ指揮ヲ承ケ分擔ノ事務ニ從フ

第四條 前條ノ部長及部員ハ館長之ヲ命ス

第五條 教務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 授業及教課ニ關スル事項
  - 二 試験ニ關スル事項
  - 三 卒業生ニ關スル事項
  - 四 教員會議ニ關スル事項
  - 五 圖書及雜誌ニ關スル事項
  - 六 圖書閱覽室及歴史參照室ニ關スル事項
  - 七 教室及講堂ノ整理ニ關スル事項
  - 八 主管ニ屬スル文書、圖書及統計ノ編纂保存ニ關スル事項
- 第六條 庶務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 御眞影及勅語ノ保管ニ關スル事項

- 二 機密文書ニ關スル事項
- 三 館長印及館印ノ管守ニ關スル事項
- 四 儀式ニ關スル事項
- 五 職員ノ服務ニ關スル事項
- 六 職員會議ニ關スル事項
- 七 當直ニ關スル事項
- 八 館中取締及營繕ニ關スル事項
- 九 衛生及洒掃ニ關スル事項
- 一〇 學生ノ募集及入退學ニ關スル事項
- 二 學籍ニ關スル事項
- 三 備人ニ關スル事項
- 三 令達、告示及諸規則ノ立案審査ニ關スル事項
- 四 成案文書、官報、公報及新聞紙ノ査閲、整理ニ關スル事項

- 五 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項
  - 六 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
  - 七 統計報告及揭示、公告並ニ印刷物ニ關スル事項
  - 八 歳入出豫算及決算ニ關スル事項
  - 九 金錢ノ収支ニ關スル事項
  - 一〇 物品ノ出納保管及處分ニ關スル事項
  - 一一 通信運搬ニ關スル事項
  - 一二 各部ノ主管ニ屬セザル事項
- 第七條 學生監部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 學生ノ風紀及衛生ノ取締ニ關スル事項
  - 二 學生ノ賞罰ニ關スル事項
  - 三 學生ノ身體検査ニ關スル事項
  - 四 學生ノ願届書ニ關スル事項

明治四十三年  
五月二十一日  
館達第二號ニ  
ヨリ改正

- 五 學寮ノ事務ニ關スル事項
- 六 學寮ノ當直ニ關スル事項
- 七 寮費ニ關スル事項
- 八 炊事ニ關スル事項
- 九 主管ニ屬スル文書、圖書及統計ノ編纂保存ニ關スル事項

(三) 神宮皇學館當直規程

神宮皇學館達第二號 明治三十七年六月二十一日

神宮皇學館當直規程別冊ノ通相定ム

○神宮皇學館當直規程

- 第一條 當直ハ一名トシ判任官及雇ヲ以テ之ニ充ツ
- 第二條 當直割當ハ庶務部ニ於テ豫メ一ヶ月毎ニ番表ヲ製シ各員ノ認印ヲ徵ス
- 第三條 當直ノ勤務ハ休館日又ハ平日退館時限ヨリ翌日登館時限迄トス

第四條 休館日ノ當直交代ハ平日ノ登館時限ニ依ル

第五條 當直割當ノ後公務若クハ疾病、忌引等ノ事故ヲ生シタル時ハ臨時當番ヲ割當補充ス

第六條 當直ヲ交換シタル時ハ庶務部ニ通告スルヲ要ス

第七條 休館日當直ノ者ハ公務ノ繁閑ニ依リ翌日休暇スル事ヲ得但此ノ場合ニ於テハ庶務部ヘ

通告スヘシ

第八條 當直員ハ各部所管ノ鍵函ヲ管守スヘシ

第九條 當直員ハ左ノ簿冊ヲ管理シ勤務終了ノ際庶務部又ハ次番ニ引繼クヘシ

- 一 當直日誌
- 一 當直規程
- 一 當直番表
- 一 郵便受付簿
- 一 發送簿
- 一 證印簿

一 郵便電信規則

第十條 當直員ハ臨時郵便電信發送用トシテ庶務部ヨリ郵便切手ヲ領置スヘシ

第十一條 當直日誌ニハ月日官氏名及當日取扱ヒタル事務ノ要領ヲ記載スヘシ

發送簿ニハ發送文書ノ種類宛名及郵稅額等ヲ詳記スヘシ

證印簿ニハ職員宛學生宛文書ノ種類又ハ物件ノ員數ヲ記載シ職員宛ノモノハ職員各自ニ學生宛ノモノハ學生監ニ送付シ各受領印ヲ徴スヘシ

第十二條 館長宛親展書其他職員宛ノ電報又ハ親展封書ニシテ至急ノ表示アルモノハ遲滯ナク送達スヘシ

第十三條 至急ヲ要スル事アル時ハ臨機適應ノ處分ヲナシ又ハ主務部員ノ登館ヲ求ムヘシ

第十四條 各員退館後ハ各室ヲ巡視シ文書ノ散逸等アルトキハ之ヲ檢收シ特ニ火ノ元戸締ニ注意スヘシ

第十五條 非常ノ節ハ御眞影ヲ安全ノ地ニ奉移シ館長ニ急報シ門外ノ開閉點燈ノ配置文書其他重要品ノ保護等臨機ノ處置ヲナスヘシ

大正六年一月二十五日訓令  
第一號ニ依リ改正

第一 服務

神宮皇學館職員服務心得

神宮皇學館訓令第四號 大正二年十二月二十七日

神宮皇學館職員服務心得左ノ通定ム

○神宮皇學館職員服務心得

第一條 新ニ任命セラレタル者ハ直ニ現住所ヲ館長ニ届出デ且五日以内ニ履歷書ヲ差出スヘシ

但シ履歷ニ關スル異動ヲ生シタルトキハ其ノ旨速ニ館長ニ届出ツヘシ

第二條 職員出勤スレハ先ツ勤仕簿ニ捺印スヘシ

第三條 疾病又ハ事故ノ爲メ出勤時限ヨリ一時間以上ヲ過ギ出勤シタルトキハ其事由ヲ館長(館長不在ノトキハ主務上席者)ニ陳述スヘシ

第四條 執務中疾病又ハ事故ノ爲メ退出セントスルトキハ其ノ事由ヲ館長(館長不在ノトキハ主務上席者)ニ申出承諾ヲ受クヘシ

第五章 神宮皇學館職員服務心得



第五條 執務時間外若ハ休暇日ニ服務スルトキハ其ノ事由ヲ當直員ニ通告スヘシ

第六條 疾病又ハ事故ノ爲メ出勤スルコト能ハザルトキハ其ノ病狀又ハ事故ノ要領ヲ記載シ當

日午前中(受持授業アル者ハ其ノ授業時間前)館長ニ届出ツヘシ

病氣缺勤七日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ爾後届出ノ都度亦同シ但シ休暇日ノ前後共缺勤ノトキハ其ノ休暇日ハ之ヲ缺勤日數ニ通算ス

第七條 證人又ハ鑑定人トシテ裁判所ノ召喚ヲ受ケタルトキハ其ノ裁判所事件及期日ヲ記載シ

大宮司ノ認可ヲ請フヘシ同事件ニ付キ引續キ出頭ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ都度大宮司ニ届出ツヘシ

第八條 父母ノ祭日ニハ其ノ旨館長ニ届出ツヘシ

第九條 忌服ヲ受ケタルトキハ其ノ親族ノ續柄及忌服日數ヲ記載シ館長ニ届出ツヘシ

第十條 病氣看護墓參轉地療養ノ爲又ハ忌引賜暇中旅行セントスルトキハ其ノ事由旅行ノ期日及旅行先ヲ記載シ轉地療養ニハ醫師ノ診斷書看護ニハ其ノ事實ヲ認ムヘキ書類ヲ添ヘテ館長ノ許可ヲ請フヘシ

旅行許可期限内ニ歸着シ難キ場合ニ於テハ前項ニ準據シ許可ヲ得タル期限内ニ延期ノ追願ヲ爲スヘシ但シ天災等ノ爲期限内追願ノ手續ヲ爲ス能ハサル場合ハ官公署ノ證明書ヲ添ヘ歸着後之ヲ爲スコトヲ得

第十一條 出張ヲ命セラレタルトキハ出發届ヲ發程前ニ歸館届ヲ歸着ノ翌日迄ニ館長ニ差出スヘシ但シ至急ノ場合ニ於テハ歸館ノ上發着ヲ届出ツルモ妨ゲナシ

第十二條 出張シタル者ハ歸館ノ日ヨリ三日以内ニ復命書ヲ館長ニ差出スヘシ但シ輕易ノ事件ニ付テハ口頭ヲ以テ復命スルモ妨ゲナシ

第十三條 徴兵検査又ハ召集簡閱點呼ノ令狀ヲ受ケタルトキハ其ノ寫ヲ添へ出發及歸着ノ月日地名ヲ記載シ速ニ館長ニ届出ツヘシ

第十四條 退館ノ節ハ簿書類ヲ取纏メ散逸セザル様注意スヘシ但シ重要ノ物件ハ特ニ當直員ニ保管ヲ託スヘシ

第十五條 神宮所管ノ建設物又ハ其ノ附近ニ災害若ハ不慮ノ事變アルトキハ速ニ駐付警戒及防禦ニ従事スヘシ

大正五年三月  
十六日內務省  
訓令第一號ヲ  
以テ改正

### 第三 旅行

內務省訓令第二一號 大正二年十月三十日

神宮職員旅行規程左ノ通定ム

#### ○神宮職員旅行規程

第一條 神宮職員ノ出張ハ神宮大宮司之ヲ命ス但シ神宮大宮司ニ付テハ左ニ掲クル場合ヲ除ク

ノ外其ノ事故日數地名等ヲ具シ內務大臣ヘ稟請スヘシ

- 一 三泊以内ノ旅行
- 二 祖父母、父母、妻子、疾病危篤ニテ難擱事情ニ因ル旅行
- 三 賜暇旅行
- 四 忌引中歸省

第二條 前條ノ出張命令ハ神宮皇學館ニ在リテハ神宮皇學館長、神宮神部署及神宮神部署支署ニ在リテハ神宮神部署長ニ之ヲ委任スルコトヲ得但シ神宮皇學館長神宮神部署長ノ出張ニ

付テハ此ノ限リニ在ラズ

第三條 神宮神部署長ハ其管轄區域内ニ出張シ及部下職員ニ對シ管轄區域内ニ出張ヲ命スルコトヲ得

#### 附 則

第四條 本令ハ大正二年十一月一日ヨリ施行ス

明治三十九年十二月訓令第九一五號神宮司廳職員旅行規程及大正元年八月訓第六三號神宮神部署職員旅行規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第六章 職員

第一 職員 (大正六年二月一日現在)

●館長

從三位勳三等法學士 武田千代三郎 福岡

一志久保五四屋敷

●評議委員(囑託日付順)

東京府知事 正四位勳三等法學博士 井上友一

貴族院議員 正四位勳三等文學博士 澤柳政太郎

東京帝國大學文科大學長 正四位勳二等文學博士 上田萬年

東京帝國大學文科大學教授 正四位勳二等文學博士 三上參次

文部次官 從四位勳四等法學士 田所美治

東京帝國大學文科大學教授 從四位勳三等文學博士 萩野由之

學習院教授 從五位文學博士 松本愛重

內務省神社局長

正五位勳四等法學士

塚本清治

內務次官

從四位勳二等法學博士

水野鍊太郎

●教授

外國史、國史、歷史科主任、教務部長

正六位文學士

森田實三重  
古市町四屋敷

漢文、漢文科主任

正六位文學士

湯淺廉孫岡山  
古市町一七屋敷

外國史、國史

正七位文學士

深澤鍾吉山形  
宮後町四八屋敷

國文、國文科主任、學生監部長

正七位文學士

鈴木幸東京  
吹上町二八八地

國文

正七位文學士

次田潤岡山  
曾禰町四四地

國史、法制、教務部員

從七位

阪本廣太郎奈良  
久世戸町二八地

國史

從七位文學士

竹島寬富山  
吹上町四三四地

修身、哲學、教務部員

從七位文學士

入澤 宗壽 島取  
宮後町九三地

●助教

武術

書記

金剛 幸之助 三重

國文、漢文

磯部 百三 三重  
今在家町一三屋敷

國文、武術、教務部員

三東 義邦 島根  
俣町三八屋敷

漢文、習字

從七位

大塚 敬愛 媛  
四郷村楠部

數學、教練、學生監部員

陸軍歩兵中尉  
從七位勳六等

阪東 淺吉 三重  
浦田町

●學生監

教授

鈴木 暢 幸

助教

阪東 淺吉

●書記

庶務部長、收入員、物品會計員

金剛 幸之助 三重  
船江町一九四屋敷

庶務部員

岡田 幸右衛門 三重  
下中之郷町一五地

庶務部員

片岡 小次郎 三重  
中之町六二屋敷

●講師 (囑託日付順)

從五位文學博士

松本 愛重

漢文

從五位勳五等

置塩 藤四郎 靜岡  
岩淵町四六地

英語

川井 運吉 秋田  
一志久保町七九地

法制、學生監部員

法學士

佐藤 正人 福島  
浦田町

祭式

從六位

青戸 波江 島根

有職故實、禮式

正六位勳六等

木村春太郎 岡山

本町五三屋敷

●授業囑託(囑託日付順)

武術

勳八等

渡邊万治郎 三重

大世古町三六三地ノ一

武術、學生監部員

羽鳥光四郎 群馬

會淵町四四一地

教練、學生監部員

陸軍歩兵特務曹長  
從七位勳六等功六級

黒田由治郎 三重

岩淵町

雅樂

神宮伶人

濱口爲三

古市町

●館醫囑託

日本赤十字社三重支部  
山田病院 院長醫學博士

坂井精一 三重

山田病院舎宅

●雇

教務部員

丸山鎮吉 三重

吹上町三九八地

### 第七章 學生生徒

#### 第一 學生生徒府縣別員數表

(大正六年二月一日現在)

府縣別	道學級別				總計
	四年本科	三年本科	二年本科	一年本科	
北海道	二		一		三
東京					〇
京都		一	二	一	四
大阪		一	二		三
神奈川			一		一
兵庫		二		一	四
長崎		三			四
新潟			一	三	五
埼玉					〇

第七章 學生生徒府縣別員數表

山口	廣島	岡山	島根	鳥取	富山	石川	福井	秋田	山形	青森	巖手	福島
		二										
一					二		一					一
一	一			二		二		一				
	一	三					一	一				
									二			
三	二	五	〇	二	二	二	二	二	二	〇	〇	一

一一一

宮城	長野	岐阜	滋賀	山梨	静岡	愛知	三重	奈良	栃木	茨城	千葉	群馬
					三	一	五					
	一	一				三	三			一	二	
		一	一			一	五					
二		二		一	一	四	六		一	一		一
						一	八					
二	一	四	一	一	四	一〇	二七	〇	一	二	二	一

110

通計	沖繩	鹿兒島	宮崎	熊本	佐賀	大分	福岡	高知	愛媛	香川	徳島	和歌山
二〇		一		一								
二五						一	二		一		一	
二八				一		二					二	三
三九						一	二			一	二	
一五						一	一				一	
一二七	〇	一	〇	二	〇	五	五	〇	一	一	六	三

第二 學生生徒生年別員數表 (大正六年二月一日現在)

合計	專科第二部	科 本				學科學年
		第四學年	第三學年	第二學年	第一學年	
二	二					三三
三	二				一	三三
二	三			一	七	三二
一三	一			三	九	三〇
二〇			四	七	九	二九
二三	二	一	六	八	六	二八
二二	一	六	五	六	三	二七
二七	一	四	七	三	二	二六
四	一	一	一		一	二五
六	一	二	二		一	二四
二		二				二三
一		一				三三
三		三				三二
〇						二〇
一	一					一九
一二七	一五	二〇	二五	二八	三九	計

第三 學生生徒氏名 (いろは順) (大正六年二月一日現在)

(一) 本科生 ○ 特待生 ● 級長

第四學年

三重第四中	乾 堅 三 三重
愛知第五中	丹羽 孝次 愛知
岡山私立興讓中	○ 小田原 文三郎 岡山
福岡東筑中	頓田 元 穗 熊本
長崎對馬中	高山 於菟 猪 長崎
鹿兒島川邊中	辰元 英吉 鹿兒島
三重一中	中林 茂生 三重
長崎中猶興	大島 乙九 長崎
岡山私立金川中	桑原 達雄 岡山
東京私立京北中	山田 武司 三重
千葉安房中	早川 祐吉 千葉

第三學年

三重第四中	松岡 實 三重
靜岡濱松中	小山 正 靜岡
兵庫第二神戶中	兒玉 尊 臣 兵庫
靜岡濱松中	坂本 孝次郎 靜岡
北海道私立北海中學	坂井 武平 北海道
三重第一中	北川 憲男 三重
北海道上川中	柴田 直胤 北海道
長崎中猶興	壽福院 教輔 長崎
三重第四中	檜垣 貞治 兵庫
靜岡靜岡中	清 保秀 靜岡
	原 春苗 長野

第二學年

福岡東筑中	林田 威男 福岡
福井小濱中	本庄 春彦 愛知
大分宇佐中	德光 吾一 大分
兵庫第二神戶中	川西 芳藏 兵庫
京都第五中	菅 真好 愛媛
茨城水戸中	加茂 勝雄 茨城
大阪今宮中	鎌田 俊雄 大阪
岐阜東濃中	吉田 葆 岐阜
京都第五中	多村 知常 京都
宮崎延岡中	垂 永忠 夫 福岡
	高尾 信孝 富山
千葉安房中	莊司 直治 千葉

愛知第四中	辻田 建治 愛知
山口岩國中	長田 敬房 山口
富山礪波中	山森 今人 富山
奈良私立天理中	小林 康太郎 德島
三重第三中	近藤 照道 三重
三重第一中	天野 秋生 三重
愛知第五中	○ 佐藤 濱 愛知
三重第四中	澤山 孝之助 三重
長崎對馬中	櫻井 清長 崎
福島會津中	紀國 千秋 福島
福井福井中	宮島 貞男 福井



秋田秋田中	伊藤	茂秋田
愛知第五中	池山松	雄愛知
宮城築館中	池部宗七	三重
熊本鹿本中	原田敏明	熊本
石川金澤第一中	鏑木勢岐	石川
滋賀膳所中	高阪正太郎	三重
大分中津中	高橋武臣	大分
三重第一中	村田忠郎	三重
滋賀膳所中	井上礒石衛門	滋賀
廣島私立修道中	久保田紀都	廣島
和歌山和歌山中	柳野康英	和歌山
北海道上川中	政所喜澄	北海道
神奈川小田原中	二見景雄	神奈川

山口山口中	古守實正	山口
奈良郡山中	駒田惣一郎	三重
三重第四中	近藤潔三	三重
和歌山和歌山中	出口貞二郎	和歌山
岐阜岐阜中	足立熊雄	岐阜
大分大分中	佐藤東	大分
鳥取米子中	佐々木博愛	鳥取
德島富岡中	雜賀清重	德島
兵庫豊岡中	佐治正	京都
京都私立東山中	水野左近	石川
鳥取鳥取中	宮永久雄	鳥取
德島德島中	宮崎清章	德島
和歌山和歌山中	小竹譽夫	和歌山

京都第五中

東竹真澄 京都

新潟卷中

鈴木彦雄 新潟

第一學年

德島脇町中	岩尾義文	德島
宮城佐沼中	羽生三郎	宮城
福井武生中	橋本政義	福井
香川三豐中	細川敏太郎	香川
新潟糸魚川中	保坂誠實	新潟
三重第四中	鳥羽彌太郎	三重
福岡嘉穂中	虎尾文平	德島
岐阜大垣中	大場則雄	岐阜
愛知第一中	渡邊秀愛	知
三重第一中	梶原龍三	重
京都第三中	河村善也	山口

愛知私立名古屋中	川本皓	愛知
秋田秋田中	龜井良造	秋田
兵庫第一神戸中	田和寛一郎	兵庫
岐阜東濃中	田上捨四郎	岐阜
岡山津山中	爲貞千秋	岡山
愛知第五中	棚橋退藏	愛知
京都第一中	高木孝太郎	京都
福岡朝倉中	田中耕輔	福岡
長野諏訪中	土屋益雄	山梨
新潟村松中	中野二三郎	新潟
宮城仙臺中	長田雅太郎	宮城

廣嶋福山中	浮田彦麿廣島	岡山私立金光中	坂本總夫岡山
千葉佐原中	草野武一茨城	新潟村上中	澤田可雄新潟
三重第三中	小川熊三三重	三重第四中	來田親明三重
三重第四中	安岡俊一三重	愛知私立明倫中	鬼頭滿夫愛知
東京私立成城中	富士磐根靜岡	福岡小倉中	宮原真太福岡
大阪北野中	光在哲三大阪	大阪堺中	島田兵三大阪
朽木大田原中	手塚道男栃木	岡山矢掛中	平川隆一岡山
富山高岡中	秋山精一群馬	三重第四中	森口喜平治三重
大分大分中	縣五六分		

專科 第二部

岩間以人三重	竹田光三三重
稻住長次郎三重	鷹森重信三重
小野田正毅三重	奧村三省三重

山口憲三郎三重
小深田文雄大分
麻生藤吉福岡
北野猛山形
宮崎正徳島

● 十樂寺義建新潟

諏訪宗雄山形
鈴木實男三重
鈴木又一愛知

第八章 卒業生

第一 卒業生出身府縣別表(一) 大正六年二月一日調

道府縣	科別		年度
	別	別	
兵庫	專修科	本修科	二三
			二五
			二六
			二八
			二九
			三〇
			三一
			三二
			三三
			三四
			三五
			三六
			三七
			三八
			小計
七〇	三〇〇〇	〇〇四	三〇一〇〇

道府縣	專修科	本修科	年度
長崎			二二
新潟			二二
埼玉			〇〇
群馬			〇〇
千葉			二〇
茨城			〇〇
栃木			〇〇
奈良			〇〇
三重			二四
愛知			〇二
静岡			三〇
			小計
			三〇一〇〇

第八章 卒業生出身府縣別表

第八章 卒業生出身府縣別表

愛媛	香川	徳島	和歌山	山口	廣島	岡山	島根	鳥取	富山	石川
専修科	本修科	専修科	本修科	専修科	本修科	専修科	本修科	専修科	本修科	専修科
七〇二	五〇四	〇〇〇	〇〇〇	二〇〇	二〇一	〇〇一	二〇一	〇〇〇	一〇〇	一〇一

一三三

福井	秋田	山形	青森	巖手	福島	宮城	長野	岐阜	滋賀	山梨
専修科	本修科	専修科	本修科	専修科	本修科	専修科	本修科	専修科	本修科	専修科
二〇〇	一〇〇	一〇二	二〇一	二〇〇	一〇一	一〇〇	〇〇〇	二〇〇	一〇一	二〇〇

一三三



石川	福井	秋田	山形	青森	巖手	福島	宮城	長野	岐阜	滋賀
専修科	本修科	専修科	本修科	専修科	本修科	専修科	本修科	専修科	本修科	専修科
-			-						-	
-										
	-									
四〇五	三〇四	一〇二	四〇三	三〇二	二〇一	一〇三	一〇五	一〇三	一三〇二	二〇三

山梨	静岡	愛知	三重	奈良	栃木	茨城	千葉	群馬	埼玉
専修科	本修科	専修科	本修科	専修科	本修科	専修科	本修科	専修科	本修科
三〇一	五〇七	二六〇三	九八〇三	七〇一	〇〇〇	一〇一	二〇五	一〇一	〇〇一

第八章 卒業生出身府縣別表

通計	沖繩	鹿兒島	宮崎	熊本	佐賀	大分	福岡	高知							
									専修部	専修科	選修科	本科	専修部	専修科	選修科
一七〇	一三			一											
六一	一五			二											
一〇	一八			一		二	二	二							
八〇	一九						四								
二二	二〇		一		二		一	一							
七〇	二三				二										
五〇	二一														
一一〇	〇〇														
一〇	二一			二	二										
一三〇	一四						二								
二二	二六			一			一	一							
二二	二七	〇〇〇〇〇〇	三〇四	一六九	〇〇	一〇	九六	〇〇							

愛媛	香川	徳島	和歌山	山口	廣島	岡山	鳥根	鳥取	富山		
										専修部	専修科
一			一		一		二	一			
一		一									
一	一		一		一	一					
						一					
二	三	一			一	一			一		
二	二	一	一	一	一	一	二		一		
一	一	一	一	三	五	九	五	一	一		
二	五	一	一	三	九	六	五	一	一		

明治三十三年四月	明治三十四年三月	明治三十五年三月	明治三十六年四月	明治三十七年四月	明治三十八年三月	明治三十九年三月	明治四十年三月	明治四十一年三月	明治四十二年三月	明治四十三年三月
專選本 修科科	專選本 修科科	專選本 修科科	專選本 修科科	專選本 修科科	專選本 修科科	專選本 修科科	專選本 修科科	專選本 修科科	專選本 修科科	專選本 修科科
二〇二	四〇二	〇〇三	八〇二	二〇三	二〇三	六〇二	四〇九	四〇〇	六一四	九一八
一〇一	一〇〇	〇〇一	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
二〇四	八〇二	二〇四	五〇三	二〇四	五〇三	九〇三	一〇〇	二〇〇	六一五	〇一八
二〇二	八〇二	二〇五	〇〇二	九〇一	八〇二	二〇二	二〇二	二〇二	三〇三	六一四
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇

第一 卒業生職業分類別表

大正六年二月二日調

卒業年月	科別	現在	死亡	計	神職	官職	無職
明治三十三年五月	專選本 修科科	〇〇二	〇〇〇	〇〇二	〇〇二	〇〇〇	〇〇〇
明治三十五年五月	專選本 修科科	〇〇四	〇〇二	〇〇六	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
明治二十六年四月	專選本 修科科	〇〇五	〇〇一	〇〇六	〇〇三	〇〇〇	〇〇〇
明治二十八年四月	專選本 修科科	四〇二	一〇〇	五〇二	四〇二	〇〇〇	〇〇〇
明治二十九年三月	專選本 修科科	二〇二	〇〇一	二〇三	〇〇一	〇〇〇	〇〇〇
明治三十年四月	專選本 修科科	六〇三	三〇〇	九〇三	二〇〇	〇〇〇	〇〇〇
明治三十一年三月	專選本 修科科	九〇七	二〇二	一一九	六〇三	一〇二	〇〇〇
明治三十二年三月	專選本 修科科	一〇〇二	一〇三	一一五	六〇〇	一〇〇	〇〇〇



道府縣	本科	選修科	專科	合計	道府縣	本科	選修科	專科	合計
北海道	五	〇	四	九	新潟	二	〇	五	七
東京	五	一	二	八	埼玉	三	〇	〇	三
京都	九	〇	九	一八	群馬	一	〇	一	二
大阪	八	〇	六	一四	千葉	一	〇	一	二
神奈川	三	〇	一	四	茨城	一	〇	〇	一
兵庫	一八	〇	一三	三一	栃木	二	〇	一	三
長崎	六	〇	二	八	奈良	六	〇	一	七
三重	二九	一	六四	九四	福井	三	〇	二	五
愛知	一〇	〇	四	一四	石川	六	〇	三	九
静岡	三	〇	三	六	富山	二	〇	〇	二

第三 卒業生在職府縣別表

(大正六年二月一日調)

備考 實業ニ従事セル者及會社員ハ庶業ニ徴兵服務中ノ者若クハ修學中ノモノハ無職ノ中ニ計算セリ

通計	大正五年七月		大正四年三月		大正三年三月		大正二年三月		明治四十五年三月		明治四十四年三月	
	合	全	專	選	本	專	選	本	專	選	本	專
計	部	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科
四八二	二二	二〇八	二	二四九	二二	二四六	一	一〇四	一	一〇〇	二	一〇〇
四九	〇	二八	〇	二二	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	一〇二	二
五三〇	二二	二三六	二	二七〇	二二	二四六	一	一〇四	一	一〇〇	二	二
一九六	四	一四四	二	四六	四六〇	八〇一	五〇一	七〇一	四〇二	二〇七	二〇七	二〇七
一八九	〇	一九〇	〇	一六九	一三	一三七	〇〇二	一〇八	一〇八	一〇三	一〇三	一〇三
一八	〇	九〇	九	〇一一	〇〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇一	〇〇一	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
一七	〇	一三〇	五	〇〇二	〇〇〇	一〇〇	一〇〇	〇〇〇	〇〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
六一	一七	二四〇	〇	二七四	六	五〇一	三〇三	〇〇〇	〇〇一	一〇〇	一〇〇	一〇〇

山梨	滋賀	岐阜	長野	宮城	福島	巖手	青森	山形	秋田	福岡	大分	佐賀
二	三	〇	二	二	二	一	一	二	六	六	七	八
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一	一	〇	〇	二	一	〇	一	三	一	一四	三	〇
三	四	〇	一	三	三	一	二	四	七	二〇	一〇	八
鳥取	島根	岡山	廣島	山口	和歌山	徳島	香川	愛媛	高知	沖繩	臺灣	朝鮮
一	一	二	五	七	八	二	六	二	一	〇	一	三
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二	三	二	五	二	四	〇	三	一〇	〇	〇	〇	三
三	四	四	一〇	九	二	二	九	二	一	〇	一	六

第四 卒業生氏名

(一) 本科卒業生(二七〇人)  
 ○明治二十三年五月(二人)

熊本	宮崎	鹿兒島
八	六	六
〇	〇	〇
五	〇	〇
一三	六	六
滿洲	青島	通計
四	一	二二八
〇	〇	二
三	〇	一八九
七	一	四二〇

神宮禰宜 正七位 中西健郎 三重平  
 神宮神部署主事愛知支署長 從七位 泉館家理全士

○明治二十五年四月(六人)  
 神宮皇學館助教 磯部百三 三重平  
 (死亡) 大北芳太郎 全平

(死亡)

實業 三重縣會議員

實業

愛知縣海東郡津島町高等小學校教員

○明治二十六年四月(六人)

神宮權禰宜

神宮皇學館教授

神宮神部署主事秋田支署長

(死亡)

實業

神職

○明治二十八年四月(二人)

神宮禰宜

辻村梅太郎 三重平

西岡敏輔 全平

磯部次郎 全平

八羽七五郎 全士

從七位 松田長大三重平

正六位 森田實全

從六位 井上香木愛知士

甘泉精三 三重平

藤田友次郎 全平

淺野繁磨 全士

從六位六勳等 阿知和安彦 愛知平

茨城縣官幣大社鹿島神宮宮司

○明治二十九年三月(三人)

三重縣立第四中學校教諭

(死亡)

神職

○明治三十年四月(三人)

三重縣立四日市商業學校教諭

廣島縣廣島市私立廣陵中學校教諭

岡 龜次郎 三重平  
舊姓中村

○明治三十一年三月(九人)

文部省國語調査囑託

新潟縣國幣中社彌彥神社宮司

東京帝國大學史料編纂官補

從五位勳六等 鹿島敏夫 茨城平  
舊姓田中

森 幹三郎 三重平

中西弘滿 全士

石川勝全 平

館 信磨 三重士

福舍基千代 島根士

岡 龜次郎 三重平  
舊姓中村

從六位 安藤正次 東京平

正六位勳六等 高松四郎 福島士

栢原昌三 三重平  
舊姓松本

京都府官幣中社梅宮神社宮司

正七位 宇仁義 一三重平

(死亡)

木庭信喜 熊本士  
舊姓宗村

長崎縣長崎市立長崎商業學校教諭

大塚運象 熊本平

兵庫縣立第一神戸中學校教諭

近藤弘代 三重平

栃木縣別格官幣社唐澤山神社宮司

從七位 山川鶴市 静岡平

(死亡)

澤田米吉 三重平

○明治三十二年三月(五人)

(死亡)

三浦千畝 山形士

勳六等 安元久雄 福岡士

神宮皇學館書記兼助教

金剛幸之助 三重平

(死亡)

檜垣恒之全士

(死亡)

坂倉廣胖全士

○明治三十三年四月(三人)

(死亡)

平野直晃 三重士

三重縣國幣大社多度神社宮司

正七位 小串重威 全士

神職

齋藤傳左衛門 青森平

○明治三十四年三月(二人)

京都府官幣大社松尾神社宮司

從五位勳六等 長谷外余男 石川平

青島神社神職

從六位 遠山正雄 香川平

○明治三十五年三月(四人)

(死亡)

小野籌彦 大阪平

山口縣立農業學校教諭

河村政吉 三重平

埼玉縣官幣大社氷川神社宮司

正六位勳六等 額賀大直 千葉士

宮崎縣立農學校教諭

伊東増衛 宮崎平

○明治三十六年四月(三人)

福岡縣官幣大社筥崎宮宮司

從六位勳六等 葦津洗造 福岡平

大分縣國幣中社西塞多神社宮司

陸軍歩兵少尉  
正七位勳六等

吉野直人長崎士

石上清治三重平

○明治三十七年四月(十三人)

大阪府立堺中學校教諭

高根政次郎大阪平

兵庫縣立第一神戸中學校教諭

奧村與右衛門滋賀平

福井縣國幣中社若狹彦神社宮司

正七位 假谷完廣島平  
舊姓大林

岩手縣立遠野中學校

宮内茂一山形士

山形縣官幣大社月山神社宮司

從六位 宮尾詮福岡士

鹿兒島縣立志布志中學校教諭

水鳥川猪助千葉平  
舊姓關谷

神奈川縣官幣中社鎌倉宮司

島瀨左右磨奈良平

奈良縣官幣大社龍田神社宮司

正七位 矢野裕愛媛平

南滿洲鐵道株式會社工業學校教員

從六位 藪重吉大阪士

平部直宮崎士

(死亡)

秋山鼎造香川平

吉竹與吉福岡平

奈良縣官幣大社丹生川上神社宮司

從六位 伊藤千可良兵庫平

○明治三十八年三月(十一人)

神宮皇學館教授

從七位 阪本廣太郎奈良平

藤田穉三京都平

兵庫縣立洲本中學校教諭

松永卓岡山平

福井縣立福井農林學校教諭

渡部昇愛媛士

(死亡)

川勝修治兵庫士

福岡縣立小倉工業學校教諭

千田英太郎福岡平

香川縣立高松中學校教諭

泉川祐市香川平

京都帝國大學文科大學國文研究室在勤

友枝照雄福岡平

(死亡)

春木武豐熊本士

香川縣立高松中學校教諭

京都府京都市立第二商業學校教諭

○明治三十九年三月(十二人)

臺灣臺北中學校教諭

熊本陸軍地方幼年學校教授

長崎縣立佐世保中學校教諭

廣島縣立忠海中學校教諭

(死亡)

秋田縣女子師範學校教諭

宮崎縣立延岡中學校教諭

(死亡)

兵庫縣揖保郡立技藝女學校教諭

三好金太郎 香川平  
舊姓白井

湯淺長次 大阪平  
舊姓樋口

正八位 山本正一郎 京都平

兵頭柳次郎 愛媛平

川崎重興 廣島士

野田諒 宮崎士

多氣房次郎 三重平

陸軍步兵少尉正八位 東義雄 奈良平

狹間俊雄 大分平

平野政次郎 奈良士  
舊姓東野

赤井謙 和歌山士

山口縣立豊浦中學校教諭

鹿兒島縣立鹿屋農學校教諭

○明治四十年三月(十五人)

朝鮮總督府學務局編輯課編修書記

福岡縣立中學修猷館教諭

和歌山縣官幣大社熊野座神社宮司

宮城縣立仙臺第一中學校教諭

埼玉縣立熊谷中學校教諭

神職

廣島縣立師範學校教諭

廣島縣立工業學校教諭

奈良縣立櫻井高等女學校教諭

大阪府立市岡高等女學校教諭

小深田長信 大分平

神吉道治 福岡士

中村一衛 熊本士

荻原五藏 福岡士

從六位 龜井眞澄 新潟平

本間健治 宮城平

大崎太藏 三重平

福本彌吉郎 德島平

神谷哲太郎 三重平

佐藤種徳 山形士

桐山平太郎 奈良平  
舊姓廣橋

高橋恭助 兵庫士

大阪府立天王寺中學校教諭

陸軍歩兵少尉正八位

中村篤胤 大阪平

熊本縣立玉名中學校教諭

大槻弘毅 熊本平

神職

佐藤馨 大分平

宮崎縣立延岡中學校教諭

末本敏一 山口平

追試驗

(死亡)

松永益次 靜岡平

○明治四十一年二月(十八人)

福島縣國幣中社伊佐須美神社宮司

神尾清澄 滋賀平

神宮禰宜

正七位 金原利道 廣島平

佐賀縣立佐賀中學校教諭

白井敏輔 佐賀平

大阪府立茨木中學校教諭

滿井成吉 大阪平

長崎縣立農學校教諭

小野健市 大分平

島根縣鹿足郡立高等女學校教諭

三好筆太 島根平

神職

清水一布 石川平

岡山縣立岡山中學校教諭

福武周夫 岡山平

山口縣立萩中學校教諭

元重且二 大分平

三重縣立第三中學校教諭

杉生薰 三重平

愛知縣知多郡立高等女學校教諭

杉浦信造 愛知平

滋賀縣立坂田郡長濱町立長濱實科高等女學校教諭

宮部誠一 岐阜平

和歌山縣和歌山市立和歌山商業學校教諭

野溝雅二 香川平

朝鮮京城女子技藝學校教諭

上村加久二 福岡平

朝鮮釜山高等女學校教諭

重本官治 全平

日本百科大辭典完成會

平川清 熊本平

神職

森田三郎 愛知平

長野縣立小縣蠶業學校教諭

堀部營松 岐阜平

○明治四十二年三月(十九人)

京都府南桑田郡立高等女學校教諭

(死亡)

秋田縣山本郡能代港町立能代實科高等女學校教諭

和歌山縣立和歌山高等女學校教諭

愛知縣立第五中學校教諭

愛知縣名古屋市立名古屋商業學校教諭

岡山縣高梁町私立順正高等女學校教諭

兵庫縣立第二神戶中學校教諭

大分縣立中津中學校教諭

福岡縣立中學傳習館教諭

神職

京都府立第三中學校教諭

京都府京都市私立真宗中學校教諭

前野孝治 奈良士

壹岐秀雄 福岡士

坂本定徳 秋田平

松島淺之助 和歌山平

渡邊與衛 靜岡平

加藤七郎 愛知平

内田隆正 岡山士

中林善雄 奈良平

筒井三郎 福岡平

田代三郎 全士

高島信二 石川平

成田豊次郎 兵庫士

栗野秀穂 宮城士

兵庫縣神戸市立神港商業學校教諭

北海道官幣大社札幌神社禰宜

和歌山縣立和歌山實科高等女學校教諭

神宮宮掌

(明治四十三年三月(二十人))

和歌山縣立和歌山中學校教諭

奈良縣立農林學校教諭

山梨縣立高等女學校教諭

鹿兒島縣官幣大社鹿兒島神宮宮司

富山縣立富山中學校教諭

香川縣立三豐中學校教諭

勳八等

高原正作 福井平

本郷雅治 福岡士

長田眞幸 宮城士

赤岡重樹 山梨平

西村芳藏 三重平

富尾兵馬 德島平

足立達 島根士

鈴木友吉 愛知士

太田亮 大阪平

從六位

古川左京 德島平

大日方退藏 福岡士

河野次郎 愛媛平



熊本縣立球摩農業學校教諭

長東有鄰香川士

栃木縣下都賀郡立栃木高等女學校教諭

並木清太郎千葉平

和歌山縣立田邊中學校教諭

竹本仁平愛知平  
舊姓磯野

三重縣桑名郡立高等女學校教諭

橫山正則高知平

(死亡)

和歌山縣立粉河中學校教諭

小澤市藏三重平  
舊姓酒井

兵庫縣立第一神戶中學校教諭

二宮正興香川平

三重縣立鳥羽商船學校教諭

福家幸藏全平

熊本縣立天草中學校教諭

三村漸三重平

山口縣山口町私立鴻城中學校教諭

佐藤忠全平

愛知縣立第三中學校教諭

柴田節三愛媛平

兵庫縣立姫路高等女學校教諭

宮原豐四郎宮崎平

追試驗

○明治四十四年三月(二十二)

神宮神部署主事兵庫支署長

長鄉榮治福島平

(死亡)

兵庫縣立第一神戶中學校教諭

野坂元定廣島士

富山縣立富山中學校教諭

中尾眞愛媛平

静岡縣賀茂郡立中學豆陽學校教諭

鎌田春雄大阪平

神職

小田猪一郎香川平

神職

松村茂静岡平  
舊姓川合

福井縣大野郡立實科高等女學校教諭

神喜久男大分平

三重縣阿山郡上野町立實科高等女學校教諭

八劍功千葉士

兵庫縣立第二神戶中學校教諭

堀田房次郎愛知平

栗本八郎三重士

三重縣宇治山田市立商業學校教諭

宮崎縣立農學校教諭

神職

宮崎縣兒湯郡高鍋町立實科高等女學校教諭

三重縣飯南郡立實科高等女學校教諭

神職

山梨縣立都留中學校教諭心得

三重縣立工業學校教諭

兵庫縣立神戸商業學校教諭

京都府官幣大社松尾神社主典

(死亡)

神宮神部署神部補

○明治四十五年三月(二十一人)

河	鍵	中	置	堀	杉	秋	山	石	林	今	笠
井	原	村	塩	井	浦	元	口	川		泉	井
吉	信	政	敬	亦	佐	視		守	正	一	真
太	一	藏	作	三	助	之	清	雄	木	雄	次
郎	愛	三	兵	重	愛	宮	新	福	大	奈	郎
三	知	重	庫	平	知	城	潟	岡	分	其	三
重	平	平	平		平	平	平	士	平	士	重
平					舊						平
					姓						
					金						
					子						

奈良縣立畝傍中學校教諭  
 德島縣立脇町中學校教諭  
 石川縣立七尾中學校教諭  
 大阪府立北野中學校教諭  
 福岡縣立中學修猷館教諭  
 福岡縣浮羽郡立高等女學校教諭  
 神職  
 長崎縣立佐世保高等女學校教諭  
 名古屋市立名古屋商業學校教諭  
 長崎縣長崎市立商業學校教諭  
 佐賀縣立小城中學校教諭  
 秋田縣立秋田中學校教諭  
 關東都督府中學校教諭

野	阿	大	渡	佐	永	三	早	小	宮	長	稻	阪
上	部	森	邊	藤	野	木	川	林	本	坂	林	本
正	重	正	真	猛	政	善	滿	宗	庸	真	貞	峯
篤	剛	雄	一	雄	雄	三	三	治	平	賴	次	三
島	愛	石	愛	岩	福	京	三	全	長	長	福	廣
根	媛	川	知	手	岡	都	重	平	崎	野	島	島
平	平	士	士	平	平	平	平	平	平	平	平	平

陸軍歩兵少尉  
 陸軍工兵少尉  
 正八位勳六等

勳八等功七級  
 阪本峯三郎

福岡縣立小倉中學校教諭

仰木岩吉 福岡平

大阪府立四條畷中學校教諭

陸軍工兵少尉 植村近平 大阪平

山口縣立農業學校教諭

越義雄 奈良平

北海道廳立函館商業學校教諭

清水智代 群馬平

三重縣立第四中學校教諭

柴山讚治 三重平

神宮宮掌

山口忠全 平

徵古館陳列品整理事務囑託

村岡力 鳥取平

追 試 驗

愛知縣名古屋市立商業學校教諭

大內美信 愛媛平

○大正二年三月(十人)

長野縣立諏訪中學校教諭

小崎慎一 愛知平

南滿洲鐵道株式會社滿鐵教育研究所

伊藤伊八 靜岡平

兵庫縣立柏原中學校教諭

菅原佑音 三重平  
舊姓奥川

香川縣立三豐中學校教諭

外山利雄 三重士

熊本縣立玉名中學校教諭

唐崎忠夫 廣島士

秋田縣立秋田中學校教諭

小松貞藏 秋田士

靜岡縣立農學校教諭

小川吉士 長野士  
舊名玄士

鹿兒島縣立第二鹿兒島中學校教諭

齋藤重茂 青森平

長崎縣國幣小社海神社禰宜

荒張清次 奈良平

追 試 驗

滿洲遼陽公學堂教員

丸良夫 島根士

○大正三年三月(二十一人)

東京帝國大學文科大學選科生

鶴藤幾太 岡山平

神奈川縣立第一橫濱中學校教諭

渡邊直見 靜岡平

香川縣立丸龜中學校教諭

岡本祐澄 三重平

愛知縣名古屋市立名古屋商業學校教諭

中村敏男 全平

鹿兒島縣立川内中學校教諭  
 大分縣立大分中學校教諭  
 兵庫縣立洲本中學校教諭  
 佐賀縣立佐賀中學校教諭  
 鳥取縣立倉吉實科高等女學校教諭  
 佐賀縣立小城實科高等女學校教諭  
 奈良縣私立天理中學校教諭  
 新潟縣立三條中學校教諭  
 佐賀縣立小城高等女學校教諭  
 山口縣私立國學院中學校教諭  
 石川縣立小松中學校教諭  
 静岡縣立濱松中學校教諭

森本 兎 京都平  
 伊藤 勝次 長崎士  
 川合 三次郎 三重平  
 久保田 早苗 長野平  
 横山 秀雄 神奈川平  
 上田 繁松 福井平  
 楠 徹三 三重平  
 黒住 安臣 岡山平  
 丸山 帶三 静岡平  
 平井 久 熊本平  
 永松 新二 大分平  
 森 通 福井平  
 星野 源六 埼玉平

愛媛縣宇摩郡立農林學校教諭  
 熊本縣玉名郡立實科高等女學校教諭  
 大分縣立佐伯中學校教諭

○大正四年三月(十四人)

兵庫縣立第一神戸中學校教諭  
 小學校教員  
 滋賀縣立長濱農學校教諭  
 熊本縣立農學校教諭  
 高知縣立第一中學校教諭  
 兵庫縣立龍野中學校教諭  
 兵庫縣神戸市私立親和高等女學校教諭  
 兵 役

野村 春一 山口士  
 笠井 享 大阪士  
 藤岡 晋 熊本平  
 鈴木 秀夫 山口平  
 田村 晴胤 山口士  
 仲野 慶夫 大阪平  
 勝村 友三 三重平  
 加藤 介石 全平  
 箕輪 哲之助 新潟平  
 竹内 正幹 廣島士  
 長島 正輝 京都士  
 松村 規三 三重士

北海道廳立小樽商業學校教諭  
 群馬縣立工業學校教諭  
 宮崎縣立延岡中學校教諭  
 秋田縣立橫手中學校教諭  
 香川縣立粟島航海學校教諭  
 神職

○大正五年三月(二十六人)

東京帝國大學文科大學選科生  
 石川縣師範學校教諭  
 大阪府立八尾中學校教諭  
 兵庫縣立小野中學校教諭  
 滋賀縣立彦根中學校教諭  
 北海道廳立函館高等女學校教諭

渡邊	三松	富藤	大塚	高松	稻生	西村	河合	土屋	村上	大西	中西
邊	松	藤	塚	松	生	村	合	屋	上	西	西
	莊	雄	俊	利	一	爲	正	重	規	吉	坂
	一	和歌山	夫	男	穗	之	則	博	矩	壽	二
卓	全	士	三重	宮	三	助	富	三	三	京	郎
三重	平	士	士	城	重	滋	山	重	重	都	三
士				平	士	賀	士	士	平	平	重
						平					平

愛媛縣立松山商業學校教諭  
 和歌山縣立農林學校教諭  
 北海道廳立札幌第二中學校教諭  
 實業之日本社員  
 兵役  
 廣島縣立西條農林學校教諭  
 埼玉縣師範學校教諭  
 山口縣厚狹郡私立興風中學校教諭  
 兵 役  
 佐賀縣立佐賀中學校教諭  
 京都帝國大學文科大學選科生  
 佐賀縣立佐賀工業學校教諭  
 鹿兒島縣立川內中學校教諭

菅	高	橫	花	保	中	大	田	堀	多	小	田	山
真	原	田	房	井	村	塚	中	家	留	中	增	田
幸	美	精	正	恒	瀧	龍	幸	澤	政	正	關	里
愛	忠	一	雄	治	雄	夫	一	太	之	晴	一	海
媛	岡	郎	東	奈	廣	福	郎	郎	介	大	山	廣
士	山	兵	京	良	島	岡	三	香	兵	分	口	島
	平	庫	都	平	平	士	重	川	庫	平	平	平
		平	平				平	平	平			

實業之日本社員

石川縣立小松中學校教諭

兵役

佐賀縣佐賀市立佐賀商業學校

神奈川縣屬

追試驗

熊本市私立鎮西中學校教諭

(二) 選修科卒業生(二人)

○明治四十年三月(一人)

神宮宮掌

○明治四十一年三月(一人)

神職

石井一神奈川平

古河順石川平

片岡廣一福井平

菊池英太郎愛媛士

生田襄大阪平

猪瀬博愛千葉平

坂本眞鈴熊本士

陶山實熊本士

間島磐雄香川士

伊原俊三重士

山中榮太郎三重平  
舊姓竹島

大崎宇一三重平

池田豊秀三重平

松尾章雄全士

牛屋正雄岐阜士

正木眞吉三重士

山崎惠司千葉平

北村壽豊新潟平

(三) 專科卒業生(二三六人)

○明治二十八年四月(五人)

北海道國幣中社函館八幡宮禰宜

神職

神職

神職

(死亡)

○明治二十九年三月(二人)

朝鮮京釜線永登浦驛長朝鮮總督府書記

商業

○明治三十年四月(九人)

(死亡)

小學校教員

從七位

内務省造神宮使廳

(死亡)

(死亡)

神職

神職

北海道廳立小樽中學校教諭心得

○明治三十一年三月(十一人)

(死亡)

愛知縣北設樂郡稻橋村稻橋實業補習學校教員

神職

神宮皇學館書記

神職

秋吉清彦	大分平
岡田幹夫	茨城平
加藤五十代	大分平
吉倉千足	新潟平
宮崎忠男	三重平
大山英雄	福島平
中村佐一	三重平
山田文庸	青森士
佐藤珍水	岩手平 舊姓永井
井後政連	三重士
岡田幸右衛門	三重平 舊姓東
藤基千尋	石川平

新聞社員

神職

神宮宮掌

(死亡) 明治三十七八年役戰死

神職

神職

○明治三十二年三月(十一人)

愛媛縣立松山中學校教諭

實業

渡米中

(死亡)

神職

神職

勳八等功七級

岡 佐喜藏	三重士
江 田 雄吉	兵庫士
東 相 彦	京都士
澤 田 在 夫	三重士
中 村 齋 太郎	全 平
鶴 木 虎 一	宮城平
伊 佐 芹 精 太	愛媛士
小 山 田 昌 幸	山形平
吉 野 眞 澄	岩手平
岩 切 千 代 也	宮崎平
竹 內 鳳 吉	愛媛平
高 島 俊 義	兵庫平

神職

神職

神職

愛知縣國幣小社砥鹿神社禰宜

實業

○明治三十三年四月(五人)

千葉縣立安房中學校教諭

(死亡)

神職

神職

○明治三十四年三月(八人)

神宮神部署主事補新瀉支署在勤

原 忠 愛 三重士

鈴 本 信 隆 全 士

平 野 弘 全 士

袴 田 重 宣 靜岡平

高 林 貢 三重士

仁 科 滿 重 靜岡平

山 崎 比 夫 美 廣島平  
舊姓兒玉

田 尻 盛 道 熊本士

西 村 芳 助 三重平

城 山 正 憲 福岡平

荒 川 皎 平 新瀉平

兵庫縣國幣中社伊和神社主典

神職

神職

神職

實業

三重縣國幣中社敢國神社禰宜

朽木縣別格官幣社東照宮雇

○明治三十五年三月(十二人)

山形縣別格官幣社上杉神社宮司

北海道官幣大社札幌神社主典

神宮神部署主事補熊本支署在勤

(死亡) 明治三十七八年役戰死

朝鮮平壤神社神職

小 林 盛 哉 兵庫平

西 田 秀 美 福岡平

小 板 橋 尙 次 群馬平

月 川 邦 人 長崎平

山 下 力 之 助 三重平

品 田 喜 代 太 郎 愛媛平

酒 井 滿 太 郎 全 平

正七位 大 乘 寺 良 一 福岡平  
舊姓宗像

永 井 郷 助 北海道平

東 弘 門 熊本士

喜 多 山 保 豐 兵庫平

松 尾 正 枝 山口士



神職

神職

(死亡)

神職

神職

大阪府別格官幣社阿部野神社宮司

○明治三十六年四月(十五人)

神宮皇學館助教授

神職

(死亡)

廣島縣國幣小社沼名前神社禰宜

神職

大部 彦吉 兵庫平

大神 貴文 福岡士

松尾 茂之 三重士

清水 芳之 京都平

岡本 啓藏 三重平

早川 健彦 愛知士

三井 隆太 香川平

三東 義邦 島根平

原屋 懋全 平

井上 頼明 愛媛平

田上 豊策 三重平  
舊姓正田

田中 瀧次 福岡平

京都府國幣中社出雲神社禰宜

(死亡)

小學校教員

静岡縣官幣大社淺間神社禰宜

京都府官幣大社松尾神社禰宜

(死亡)

京都府官幣中社北野神社主典

神職

神職

神職

○明治三十七年四月(十九人)

小學校教員

兵庫縣別格官幣社湊川神社禰宜

白井 貢 静岡平

平山 種次 宮崎平

宮本 萬青 森平

有賀 忠義 山梨士

辻 陳雄 福井平

四本 覺宮 崎士

勳八等 藤木 諭吉 岐阜平

大島 清長 崎士

清水 庫之助 三重平

馬場 重保 全平

中世古 睦夫 三重平

富岡 要太郎 全平

神職

小學校教員

大分縣國幣中社西寒多神社主典

(死亡)

山梨縣國幣中社淺間神社禰宜

神職

神職

神職

神宮神部署主事補福島支署在勤

(死亡) 明治三十七八年役戰死

既出

(死亡)

神職

本澤	福壽	香川士
壹岐	文雄	福岡士
鹽月	湛	大分平
植木	雲根	雄長崎平
齋藤	富士	雄山梨平
佐伯	盛人	香川平
杉山	吉演	三重平
荒木	牛之輔	兵庫平
森	幸之助	三重平
平尾	旨俊	富山士
間島	磐雄	香川士
宮本	善一郎	三重平
藤本	勝義	秋田平

神職

神宮宮掌

神職

○明治三十八年三月(十六人)

菅原	中	愛媛士
高木	英夫	千葉士
民上	進	三重平
橘	功	整全士

和歌山縣官幣大社日前國懸神宮主典  
(死亡)

福岡縣官幣中社英彦山神社主典

神宮神部署主事補静岡支署在勤

神宮宮掌

神職

山本	齋生	三重士 舊姓古田
宮島	茂久	京都平
石井	三巳	福井士
松葉	具榮	福岡平
高橋	襄雄	新潟士
西村	玉藏	三重平
森	明彦	全平
三輪	田直	一愛媛平

小學校教員

奈良縣官幣大社橿原神宮名譽主典

神職

神職

神職

神職

(死亡)

愛媛縣國幣大社大山祇神社主典

○明治三十九年三月(十七人)

神宮宮掌

神職

(死亡)

神職

阿部重雄 福岡士

石王義治 滋賀士

大里昌吉 福岡平

多田茂太郎 香川平

大垣豐兵衛 兵庫平

小野朋介 山口士

齋藤長穂 大分平

江熊好太郎 廣島平

武部實彦 京都士

小林一俊 鳥取平

湯淺官補 岡山平

中林一堅 熊本士

愛知縣官幣大社熱田神宮宮掌

(死亡)

神職

神宮皇學館書記

神職

神職

(死亡)

廣島縣官幣中社嚴島神社主典

南滿洲撫順神社神職

神職

神宮宮掌

實業

神職

堀田市三郎 愛知平  
舊姓家田

村井秀三 三重平

三輪相磨 靜岡士

片岡小次郎 三重平

小深田盛隆 大分平

牛尾弘覽 鳥根平

平田晋太郎 山形平  
舊姓鐵木

村上英一 廣島平

中川藤吉 三重平

田窪八束 愛媛平

在間美郎 三重平

宮崎道別 福岡士

菅野清 島根士

○明治四十年三月(六人)

神習教々職

神職

神職

神職

小學校教員

○明治四十一年三月(十人)

神宮司應營繕事務囑託

(死亡)

神職

小學校教員

福岡縣官幣小社住吉神社禰宜

一七)

田代教孝熊本平

田中治吾岐阜平

岡本一雄石川士

田邊伊左雄愛媛平

藤井重臣新潟士

井崎正露熊本士

青木信嘉熊本平  
舊姓田代

大西廣愛媛士

小柳房延石川士  
舊姓能登部

高田辰平福岡平

横田留止郎全平

神職

福井縣官幣中社金崎宮主典

神奈川縣官幣中社鎌倉宮主典

和歌山縣官幣大社日前國懸神宮禰宜

○明治四十二年三月(八人)

(死亡)

(死亡)

兵庫縣官幣大社廣田神社主典

神職

神職

(死亡)

實業

勳七等

山本義夫兵庫士

泉慶太福井平

小野珍夫大分平

江見左織新潟士

島田義信和歌山士

藤本勘藏三重平

千鳥順治奈良士

三星勇兵庫平

宇野米太郎滋賀平

大杉勇兵庫平

辻川一夫全平

山本八十夫大阪平

(死亡)

○明治四十三年三月(二十二人)

廣島縣官幣中社嚴島神社主典

神職

神職

神宮神部署神部補

神職

兵庫縣國幣中社出石神社主典

京都府官幣大社松尾神社主典

神職

小學校教員

神宮司廳出仕

神職

木村正雄 三重平

宮永卓爾 廣島平

櫻木清臣 大分平

久保盛丸 愛媛平

武田又八 三重平

大森牛之助 全平

長尾家利 兵庫平  
舊名六十二

野々上範義 岡山平

畑中七郎次 三重平

橋迫璣 大分平

白鬚長二 三重平

福田胤雄 全平

神宮神部署出仕

京都帝國大學文科學科生

(死亡)

神職

神職

神宮宮掌

神職

神職

神宮神部署出仕兼神宮司廳出仕

神宮奉齋會禮部補

○明治四十四年三月(七人)

神職

河村政太郎 全平

前川季兵 兵庫平

西岡新太郎 三重平

鈴木道義 愛知平

菊池蔭清 愛媛平

檜山赫吉 三重平

中尾重雄 全平

澤邊武馬 北海道平

角屋小七郎 三重平

森口靜彦 全平

井野光造 全平

井上範一郎 福岡平

小學校教員

(死亡)

大阪府官幣大社大鳥神社主典

實業

神宮奉齋會福井支部長

○明治四十五年三月(五人)

鳥取縣立農學校教員

三重縣國幣大社多度神社禰宜

神職

神職

神職

○大正二年三月(十一人)

岡部武男 岡山平

兒玉卓郎 廣島士

片山九阜 三重平

岡村董治 全平

北山重武 石川平

外池英治 滋賀平

前田源一 三重平

庄田倍三 靜岡平

爲貞元臣 岡山平

服部三衛 三重平

久光 稔 廣島平

神宮司廳出仕

京都府別格官幣社建勳神社主典

神職

徵古館農業館監守

岡山縣國幣中社中山神社主典

小學校教員

京都府官幣中社梅宮神社主典

神宮皇學館雇

兵庫縣津名郡書記

神宮神部署主事補熊本支署在勤

追 試驗

神宮神部署出仕兼神宮司廳出仕

○大正三年三月(十人)

宇仁新次郎 三重平

渡邊東夫 全平

本宮豐榮 新潟士

永岡熊夫 三重平

西山正實 岡山平

山下左美太 三重平

中村信比古 愛知平

丸山鎮吉 三重平

根木與三郎 兵庫平

東山惣三郎 三重平

串崎嘉正 島根平

朝鮮仁川仁川神社神職

磯野勝見 山形平

穴井信夫 大分平

鹽月清全 全平

酒德由藏 三重平

河村正治 全平

工藤文藏 青森平

宇佐美武吉 三重平

神田幸太郎 全平

中村秋一 全平

浦田爲三 三重平 舊姓宮本

高山定正 福岡土

丸山耕作 三重平

○大正四年四月(十三人)

神職  
神宮神部署出仕

實業

神職

南滿洲安奉線橋頭驛神職

町吏員

神宮司應出仕

神職

神職

三重縣國幣大社多度神社禰宜

和歌山縣官幣大社熊野座神社主典

神職

兵役

廣島縣國幣小社沼名前神社主典

兵役

大阪府官幣大社生國魂神社出仕

○大正五年三月(十四人)

大谷薰雄 兵庫土

高嶋景孝 新潟平

田良原義明 兵庫平

荒木實夫 廣島平

福島正雄 長野平

橋本捷一 三重平

中森良文 全平

奧良勝 廣島平

江見柳平 三重平

高島光明 大阪平

熊懷充彦 福岡土

加藤錢次郎 愛知平

造神宮使廳雇

神職

神宮司廳出仕

京都府官幣大社平安神宮主典

兵役

神職

神職

小學校教員

神職

小學校教員

小學校教員

古田	松永	宇仁	太田	中島	新井	武内	岡部	横山	橋本	宮崎	古川	池住
公一	胤壽	彌七	銳男	永曉	貫一	正胤	賢治	一彦	量雄	伊豆彦	新五郎	潔全
三重平	山口平	三重平	愛知士	京都市	三重平	愛媛平	山形平	廣島平	三重平	福岡士 舊姓中野	三重平	平

○大正五年七月(第一部七人)

神職

神田	楠	伊佐	唐澤	菅	岩松	苗村	宮瀬	安田
次郎	碌四郎	芹政雄	元三郎	義彦	左馬	真語	規矩	茂太郎
大阪平	愛知平	愛媛士	東京平	愛媛平	茨城平	三重平	三重平	全平

追試験

再試験

實業

○同 (第二部十五人)

神宮司廳雇

安田	宮瀬	苗村	岩松	菅	唐澤	伊佐	楠	神田
茂太郎	規矩	真語	左馬	義彦	元三郎	芹政雄	碌四郎	次郎
全平	三重平	三重平	茨城平	愛媛平	東京平	愛媛士	愛知平	大阪平



南滿洲撫順撫順神社神職

神宮神部署出仕  
再試験

神宮司廳出仕

鈴村主馬藏	三重平
岡東男	島根平
山口宗三郎	愛知平
井王直衛	熊本士
平田勝重	德島平
前橋政夫	三重平
山口七之助	全平
梅谷長祥	三重士
復原親雄	岐阜平
山下保輔	三重平
堀下保	全平
藤浪順	和歌山平
南波重人	島根平

附 錄

第 一 資 格

(一) 神 職 資 格

官國幣社及神宮神部署神職任用令

明治三十五年二月十日  
勅令第二八號抄

第八條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セズ高等試験委員ノ詮衡ヲ經テ奏任待遇ノ神職ニ任用スルコ

トヲ得

、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、

四 師範學校中學校又ハ高等女學校ノ國史又ハ國文科ノ教員免許狀ヲ有シ祭式ヲ修メタル者

五 神宮皇學館本科卒業ノ者

第九條 左ニ掲グル者ハ試験ヲ要セズ尋常試験委員ノ詮衡ヲ經テ判任待遇ノ神職ニ任用スルコトヲ得

- 三 前條第四號若ハ第五號ニ掲ゲタル者又ハ神宮皇學館專科卒業ノモノ
- 五 官立公立中學校若ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル官立公立中學校ノ卒業証書ヲ有スル者ニシテ祭式ヲ修メタルモノ

(二) 教員資格

教員無試験檢定ニ關シ指定ノ件 明治三十六年二月十八日 文部省告示第三〇號抄

明治三十三年文部省令第一〇號及明治三十六年同省第二號教員檢定ニ關スル規程第五條第一項第一號ニ依リ明治三十六年三月一日以後行フ處ノ無試験檢定ニ關シ指定スルコト左ノ如シ(三十六年十二月文部省告示第二一六號ヲ以テ本告示中改正)

神宮皇學館

本科

國語及漢文、歴史

第一 大正五年三月本館卒業證書授與式

一、一木内務大臣告辭

本日神宮皇學館第二十五回卒業式ヲ舉行スルニ當リ一言以テ諸子ニ告ク  
 諸子ハ五十鈴ノ川上水清ク山靜カナル處ニ在テ日夕赫赫タル神威ニ咫尺シ教養ヲ其ノ間ニ受ケ  
 シコト既ニ四年茲ニ其ノ業ヲ終ヘタリ今後諸子ノ世ニ立ツニ當リ居常人格ノ修養ト學術ノ鍛鍊  
 トニ懈ラサルヘキハ固ヨリ言ヲ俟タスト雖更ニ進テ皇典ノ蘊奧ヲ究メ克ク我カ國體ノ尊嚴ナル  
 所以ヲ講明シ尊祖敬神ノ感念ヲ啓沃スルニ勉メ以テ世道人心ニ資益スルハ諸子ノ最モ重要ナル  
 責務タルヘシ本館設立ノ主旨此ニ存シ世人カ諸子ニ期待スル所亦此ノ外ニ出テス願フニ尊祖敬  
 神ノ感念ハ我邦建國以來ノ涵養シタル所ニ係ルト雖昨秋即位ノ禮及大嘗祭ヲ御舉行アラセラレ  
 タルニ際シテ殊ニ一段ノ旺盛ヲ加ヘ國體ニ關スルノ自覺爲ニ益堅實ナルヲ致セリ是畢竟忠愛無  
 比ナル我國民精神ノ發露シタル所ニ外ナラス希クハ諸子思フ此ニ致シ進勉努力此ノ精神ヲ發揮  
 助成スルヲ旨トシ以テ邦家ノ進運ニ貢獻セムコトヲ以テ告辭トナス

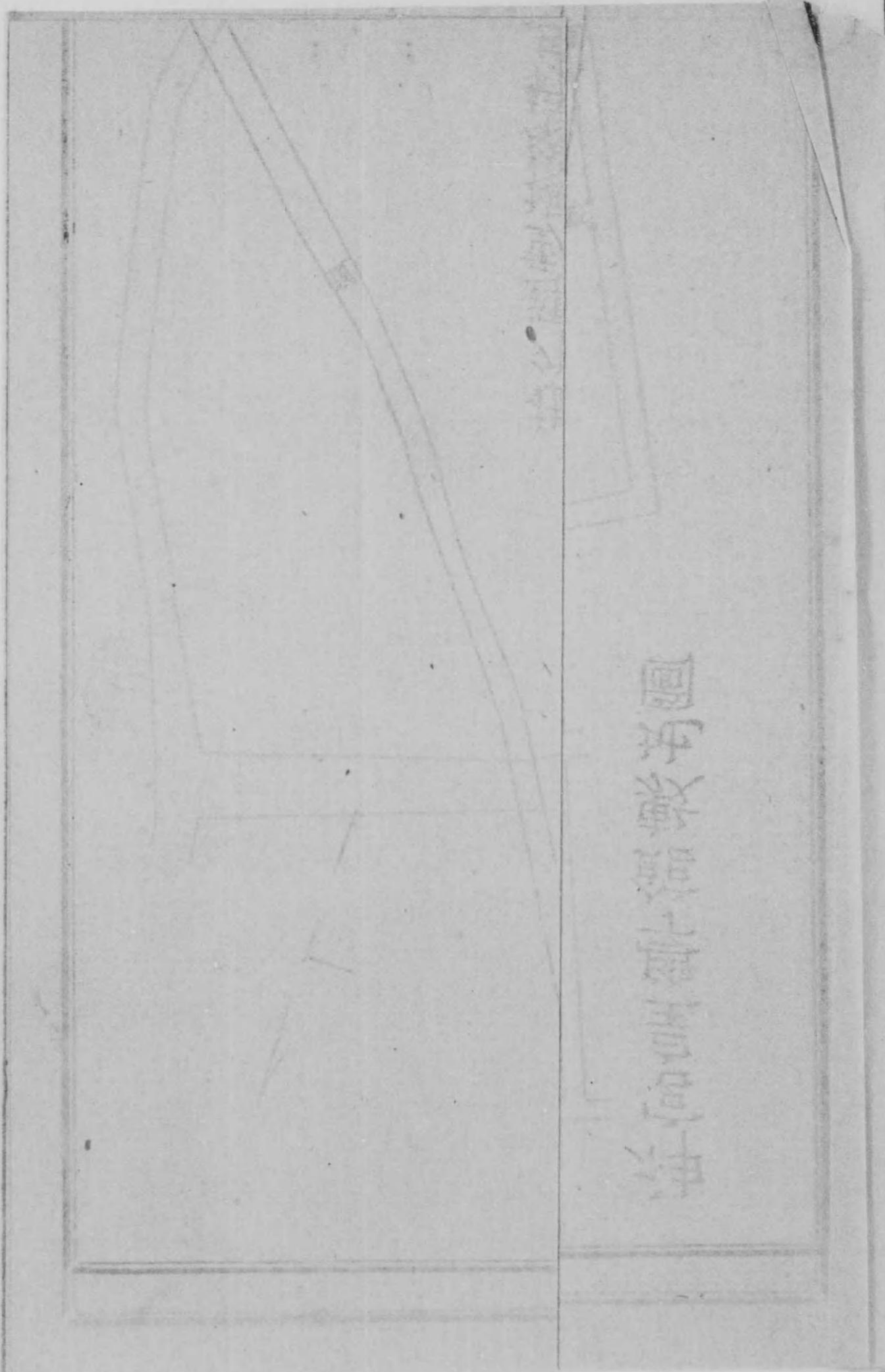
二、神宮大宮司告辭

本日神宮皇學館卒業證書授與式ヲ舉クルニ方リ卒業生諸子ノ爲ニ之ヲ祝スルト共ニ一言望ム所ヲ諭ク

抑本館教育ノ趣旨ハ 故祭主邦憲王殿下ノ令旨ニ明ナル所ニシテ諸子又夙ニ熟知スル所ナリ今ヤ諸子茲ニ螢雪ノ業ヲ卒ヘ有爲ノ材ヲ抱キテ社會ニ立タムトス其ノ向フ所同シカラスト雖モ本館ノ主義精神ヲ發揮スル上ニ於テハ其ノ歸ヲ一ニセスンハアラス然リト雖モ事言フハ易ク行フハ難シ諸子ノ前途ハ尙ホ遼遠ナリ其効果ハ遠ク將來ニ存ス諸子益智徳ヲ研キ操行ヲ修メ至誠事ニ當リ恪勤業ニ從ヒ以テ風教ヲ裨益シ 皇恩ニ報イ苟モ本館教養ノ趣旨ニ悖ルコト勿レ

第四 神宮皇學館經費累年比較表

年 度	俸給及諸給	事務費	旅 費	學生費	營繕費	臨時費	計
明治三十六年	八、一三七七六〇	一、二四五、一三四	一三九九九〇	八四四七〇〇	九、二六九九四		二二、二九九五七八
明治三十七年	八、七二九四五	一、六九二、八四七	一九四四一〇	七七三七五	三六二、二〇〇		一一、七五二、六四七
明治三十八年	八、八三四三〇	一、四八二、二六二	一三六六五〇	六七〇、二九〇	六〇二、八〇五		一二、八三九、〇七七
明治三十九年	九、二〇九一〇	一、三四四、三三八	一三八五三〇	六九九、一〇〇	二六七、九九三		一一、七四八、八八〇
明治四十年	九、三八五六〇	一、六四三、三二〇	一五〇〇五〇	七七五、九〇〇	九二一、八二八		一五、八七六、六九八
明治四十一年	一〇、三八四四〇	一、八三九、八一	四四一、七〇二	五七六、一一二	三九三、五九八		一七、五二〇、三六五
明治四十二年	一〇、八六四、五七七	一、九六七、二七六	四一七、四九〇	六二七、四三二	六四六、五八二		一七、六三三、四七四
明治四十三年	一一、八三九、四二〇	一、九四九、九一	四一八、四八〇	六七四、四五〇	三、五四六、四〇		一八、八四八、一九一
明治四十四年	一四、八二七、六〇〇	二、二五六、三九	四九二、八八〇	六六七、八一〇	六五八、〇九二		二四、六四九、六九〇
大正元年	一五、二六五、六四四	二、五〇七、七九八	五四一、三四〇	六九九、〇七二	三、八二七、〇七	一三、二四九、二〇〇	三三、六四九、六九〇
大正二年	一五、八八三、七〇〇	二、二八五、六〇	四九六、七一〇	八八二、五六〇	四、二八五、〇	五、〇〇〇、〇〇〇	二四、九〇四、三八〇
大正三年	二二、五八七、七〇〇	三、〇六九、五六〇	一、七八三、三六〇	四七三、八六〇	四、二八五、〇	五、〇〇〇、〇〇〇	三三、七二二、三三〇
大正四年	二二、二〇九、五〇〇	三、〇七一、一四五	一、七八三、三六〇	六二九、八一〇	四、二八五、〇		二六、五〇一、六六五
大正五年	二〇、二五五、〇〇〇	二、三二八、七五	一、七八三、三六〇	六四八、八八〇	二、七四〇、五〇		二四、七〇五、五六五



汽缸蓋剖面圖

序號	名稱	材料	數量	備註
1	汽缸蓋	HT150	1	
2	汽缸蓋螺絲	HT150	12	
3	汽缸蓋墊圈	HT150	1	
4	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
5	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
6	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
7	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
8	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
9	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
10	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
11	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
12	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
13	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
14	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
15	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
16	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
17	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
18	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
19	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
20	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
21	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
22	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
23	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
24	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
25	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
26	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
27	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
28	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
29	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
30	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
31	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
32	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
33	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
34	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
35	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
36	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
37	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
38	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
39	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
40	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
41	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
42	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
43	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
44	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
45	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
46	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
47	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
48	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	
49	汽缸蓋鎖緊墊圈	HT150	12	
50	汽缸蓋鎖緊螺絲	HT150	12	